未来のゲームチェンジャーの
「まずやってみよう」をカタチに

かっこ株式会社｜証券コード:4166
2026年12月期 第3四半期
決算説明資料

FY2026 Third Quarter Financial Results

COPYRIGHT 2026 Cacco Inc.

2026年11月13日

目次

1 2026年12月期 事業進捗サマリ

2 2026年12月期 第3四半期 連結業績

3 2026年12月期 通期 連結業績見通し

4 成長戦略

5 Appendix

Contents

© Cacco Inc.

2026年12月期
事業進捗サマリ

FY2026 Business Progress Summary

2026年12月期｜事業進捗サマリ

不正検知サービスの機能拡充

2月

cs cart

「CS-Cart」と「O-PLUX」が連携

世界5万件以上の採用実績を持つECプラットフォームと連携を開始。

開発不要でカード不正利用対策を導入可能に。

4月

不正検知サービス O-PLUX

不正検知サービスを「O-PLUX」へブランド統合

「O-MOTION」を国内シェアNo.1※の「O-PLUX」へ統合。

金融機関の口座開設・ログイン・取引を一貫して支援。

4月

メールチェックサービス Mail Validator

「Mail Validator」特許取得、累計判定200万件突破

メールアドレスの有効性判定アルゴリズムが特許取得（特許第7840545号）。

金融・不動産・通信で導入が拡大。

M&A・業務提携による成長加速

4月

アドフラウド対策「X-log」の提供を開始

広告不正クリック対策サービスを譲受し提供を開始。

広告から決済まで一気通貫での不正対策が可能に。

X-log エックスログ

6月

株式会社Anycloudを完全子会社化

AI受託開発・UXデザインのAnycloudをグループ化。

AIプロダクトの共同創出や顧客基盤の相互送客を推進。

Anycloud

10月

「AIセキュリティ診断サービス」の提供を開始

AIが攻撃者視点で脆弱性を診断、継続検証し、修正完了まで伴走。

「O-PLUX」と合わせ、「攻撃」と「不正」の両面から防御。

Anycloud

11月

「Anycloud オウンドSFA」の提供を開始

業務に合わせて作り込め、コードもデータも自社の資産に。

ユーザー単位課金のSFAより費用を抑えやすく、AI連携から保守まで一貫支援。

Anycloud

※株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」2026年3月末日時点

© Cacco Inc.

事業進捗サマリ｜新サービス「AIセキュリティ診断サービス」の提供を開始

NEW｜2026年10月 提供開始

AIエージェントが攻撃者の視点で脆弱性を継続的に検証し、エンジニアが修正の完了まで伴走するセキュリティ診断サービス。
2026年10月に提供を開始。「O-PLUX」と合わせ、「攻撃」と「不正」の両面からオンライン事業を守る。

Why now

600件

公表された不正アクセス等の被害※1

2026年1〜9月で前年の年間件数（593件）超

10件

100万件以上の個人情報漏えい※2

上場企業等。2025年通年（6件）を超過

24時間未満

脆弱性の発見から悪用まで※3

中央値。AIによる攻撃の自動化で高速化

Our Approach

Anycloud

01 **横断的な診断** コードからクラウド設定まで6領域を一気通貫で診断

02 **継続的な診断** 定期的に繰り返し、修正済み箇所の再発も確認

03 **修正完了までの伴走支援** 修正方針の策定から本番反映まで支援



※画面はイメージです。数字は架空のものです。

※1 トレンドマイクロ株式会社による企業・自治体の公表情報の集計（共同通信2026年10月6日報道）
※2 株式会社東京商工リサーチ（2026年10月7日公表、10月5日時点）　※3 Microsoft「Digital Defense Report 2026」（2026年10月）

© Cacco Inc.

事業進捗サマリ｜新サービス「Anycloud オウンドSFA」の提供を開始

NEW｜2026年11月 提供開始

業務に合わせて作り込めて、保守まで任せられる、AIとつながる営業基盤（SFA：営業支援システム）。
2026年11月に提供を開始。既製品でも、ゼロからの開発でもない「第三の選択肢」として、今お使いのSFAより費用を抑える前提で提案。

Why now

課題01　業務がSFAに載りきらない

既製のSFAは製品の仕様に業務を合わせる必要があり、独自の承認フローや商流はExcel・手作業での二重管理が残りやすい。

課題02　使う人が増えるほど費用が増える

ユーザー単位の課金では、営業以外の部署へ広げるたびに費用の検討が必要。カスタマイズが積み重なるほど移行も難しくなる。

課題03　顧客データが集まり、攻撃の標的に

SFAには顧客・商談の情報が集まる。連携する外部アプリを経由した不正アクセスも相次ぎ、データの置き場所と権限の統制が重要に。※1

Our Approach

Anycloud

01 **業務に合わせて作り込める**　項目・画面・自動化を設定で変更

02 **自社の資産として持てる**　今お使いのSFAより費用を抑える前提で提案

03 **保守まで任せられる**　構築したチームが保守まで担い窓口を一本化



※1 Google Threat Intelligence Group 発表（2025年8月27日）ほか。SFAと連携する外部アプリの認可情報が盗まれ、正規の権限で顧客データが持ち出される事案が相次いだ。

※ 画面はイメージです。表示内容は架空のものです。

© Cacco Inc.

2026年12月期
第3四半期 連結業績

FY2026 Third Quarter Financial Results

2026年12月期 第3四半期｜連結業績ハイライト①

連結売上高（FY26 3Q累計）

739百万円

YoY **+22.9%**※1

連結営業利益（FY26 3Q累計）

▲104百万円

営業利益率 **▲14.1%（YoY**※1 **▲0.1pt）**

ストック収益※2（FY26 3Q累計）

597百万円

YoY **+25.5%** ストック収益比率 **80.8%**

連結売上高は堅調に推移

うちAnycloudの連結による寄与は39百万円で、これを除く既存事業の売上高は699百万円（YoY +16.4%）。不正検知サービス売上高は622百万円（YoY +25.2%）、構成比は84.3%。

営業赤字はM&A・事業譲受に伴う一過性費用を除くと前年同期から改善

FY26 3Q累計の連結営業利益は▲104百万円。Anycloudの取得関連費用（28百万円）など、一過性費用計36百万円を除くと▲67百万円となり、前年同期（▲84百万円）から17百万円改善。

不正検知サービスの導入が進捗、ストック収益が伸長

「ドメイン単位での市場開拓戦略」を推進し、EC・金融業界で「O-PLUX Account Protection」の導入が拡大。ストック収益はYoY +25.5%と売上高（+22.9%）を上回るペースで伸長し、ストック収益比率は80.8%（YoY +1.7pt）に上昇。

TOPIC **Anycloudとのシナジー第一弾「AIセキュリティ診断サービス」の提供を開始（2026年10月）**

※1 当社は第2四半期連結会計期間より連結財務諸表を作成しているため、前年同期は当社単体の実績と比較しています（決算短信では前年同期比を記載していないため参考比較）。株式会社Anycloudは当第3四半期より損益（2026年6月1日～8月31日）を連結。
※2 ストック収益＝不正検知サービス「O-PLUX」の定額課金である月額料金＋審査件数に応じた従量課金である審査料金（「不正チェッカー」を含む）、アドフラウド対策サービス「X-log」を含む。SaaS型BNPLシステム売上を除く。

© Cacco Inc.

2026年12月期 第3四半期｜連結業績ハイライト②

連結経常利益※1（FY26 3Q累計）

▲106 百万円

経常利益率 **▲14.4%（YoY ▲0.6pt）**

ストック収益比率※2（FY26 3Q累計）

80.8 %

YoY **+1.7pt**

「O-PLUX」解約率（FY26 3Q累計）

0.38 %

YoY **▲0.04pt**

経常損益は営業損益に営業外損益を加え▲106百万円

営業外収益2百万円（受取利息及び配当金等）と営業外費用5百万円（借入金に係る支払利息等）を計上し、FY26 3Q累計の連結経常利益は▲106百万円。投資有価証券評価損14百万円（現金支出を伴わない）を特別損失に計上し、親会社株主に帰属する四半期純利益は▲121百万円。

ストック収益比率は80.8%に上昇

不正検知サービスのストック収益597百万円（YoY +25.5%）が連結売上高の80.8%を占める。Anycloudの受託開発売上（39百万円）を連結に取り込んだ中でも、比率は前年同期から1.7pt上昇。

「O-PLUX」の解約率は低水準を維持

FY26 3Q累計の「O-PLUX」解約率は0.38%と、前年同期から0.04pt低下。継続利用の積み上がりがストック収益の伸長を支える。

※1　当社は第2四半期連結会計期間より連結財務諸表を作成しているため、前年同期は当社単体の実績と比較しています（決算短信では前年同期比を記載していないため参考比較）。株式会社Anycloudは当第3四半期より損益（2026年6月1日～8月31日）を連結。
※2　ストック収益＝不正検知サービス「O-PLUX」の定額課金である月額料金＋審査件数に応じた従量課金である審査料金（「不正チェッカー」を含む）、アドフラウド対策サービス「X-log」を含む。SaaS型BNPLシステム売上を除く。

© Cacco Inc.

2026年12月期 第3四半期｜連結業績ハイライト③

（金額単位：百万円）

	実績（3Q累計）					通期計画		
	FY2023 3Q累計（単体）	FY2024 3Q累計（単体）	FY2025 3Q累計（単体）	FY2026 3Q累計（連結）	YoY増減 ※1※2	FY2026 期初計画（単体）※3	FY2026 修正計画（連結）	計画達成率※4
売上高	753	523	601	**739**	+22.9%	900	**1,058**	69.8%
(不正検知サービス売上高)	615	399	497	622	+25.2%	801	846	73.5%
営業利益	▲8	▲202	▲84	**▲104**	-	▲112	**▲182**	-
(営業利益率)	▲1.1%	▲38.8%	▲14.0%	▲14.1%	-	▲12.5%	▲17.3%	-
経常利益	▲18	▲202	▲82	**▲106**	-	▲116	**▲191**	-
(経常利益率)	▲2.5%	▲38.8%	▲13.8%	▲14.4%	-	▲13.0%	▲18.1%	-
親会社株主に帰属する**四半期純利益**	▲24	▲203	▲83	▲121	-	▲117	▲206	-

※1 当社は第2四半期連結会計期間より連結財務諸表を作成しているため、前年同期は当社単体の実績と比較しています（決算短信では前年同期比を記載していないため参考比較）。株式会社Anycloudは当第3四半期より損益（2026年6月1日～8月31日）を連結。
※2 営業損益、経常損益のYoY・計画達成率の表記は、株式会社東京証券取引所の決算短信の表記基準にならい「-」としています。
※3 期初計画は、2026年2月13日に公表した通期個別業績予想（参考）です。計画達成率は連結業績予想に対するものです。
※4 計画達成率は、2026年8月13日に公表した修正後の通期連結業績予想に対する進捗率です。

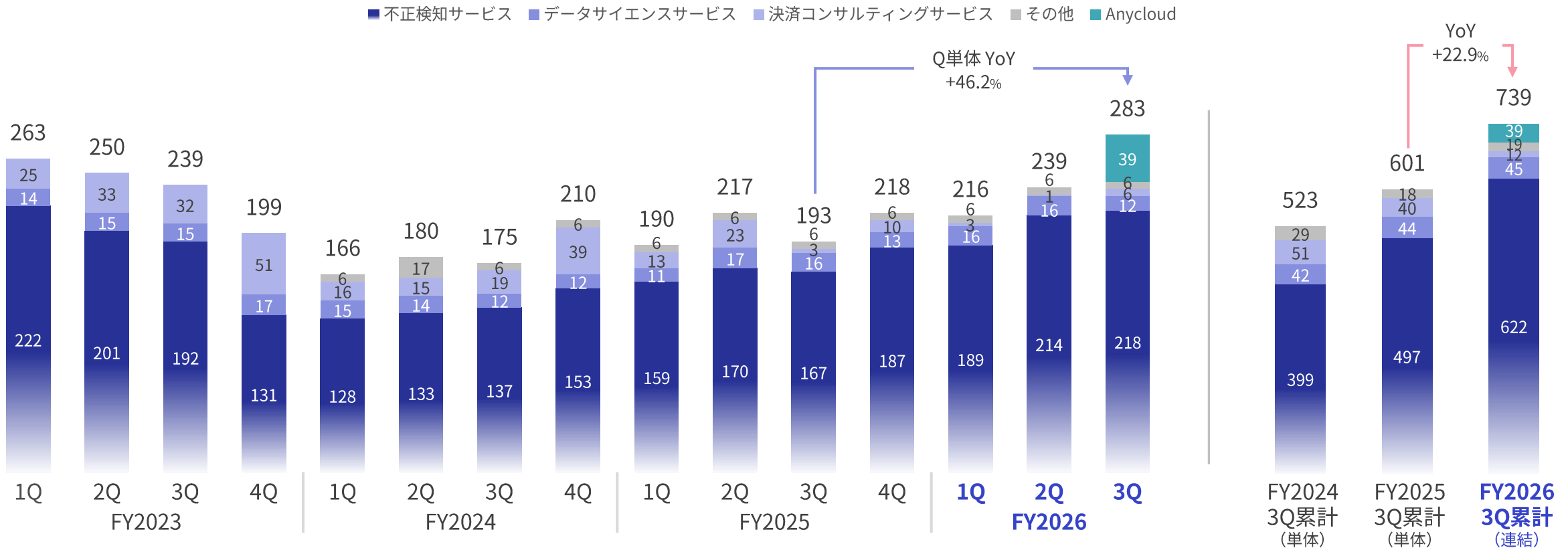
© Cacco Inc.

2026年12月期 第3四半期｜連結売上高の推移

FY26 3Q累計連結売上高は739百万円（YoY +22.9%）※1、計画達成率69.8%で着地。
- 主因は不正検知サービス「O-PLUX Account Protection」（不正ログイン対策）の導入数の拡大と、株式会社Anycloudの連結開始（39百万円）。
- アドフラウド対策サービス「X-log」の取得も寄与。

連結売上高推移

（金額単位：百万円）



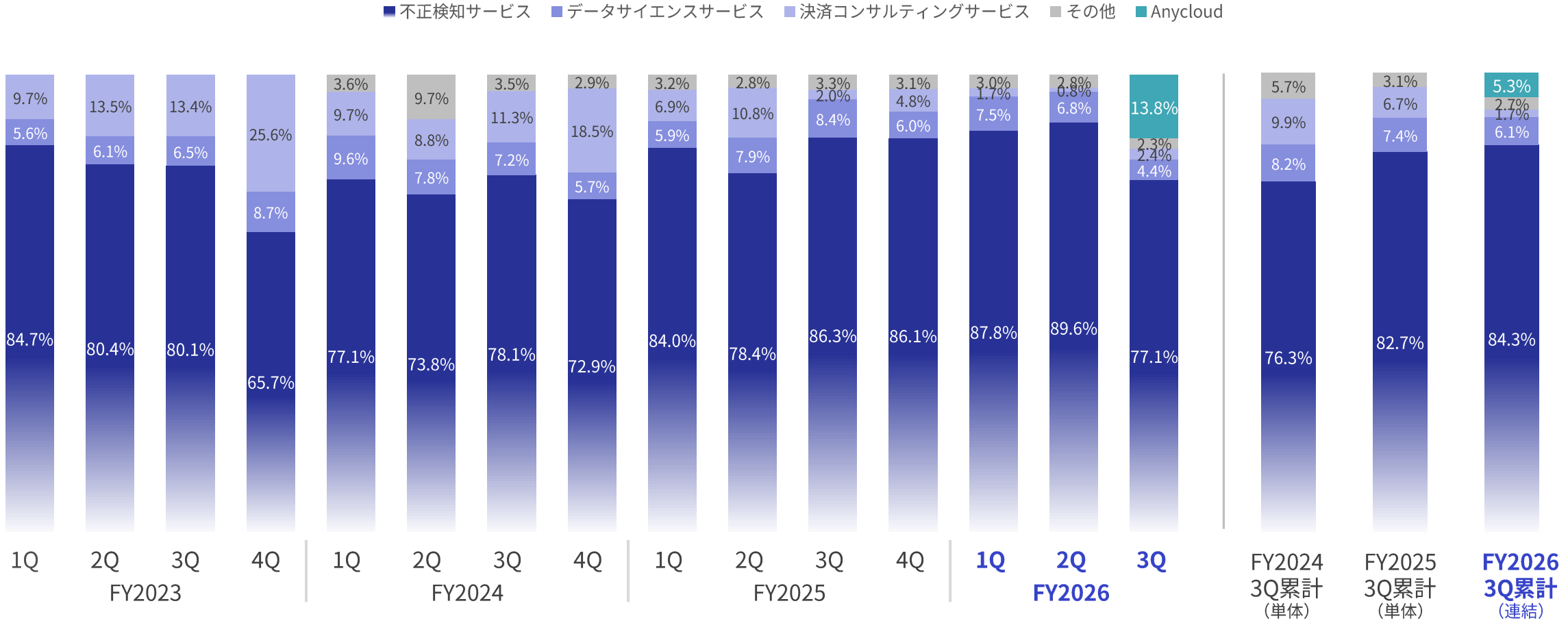
※1 当社は第2四半期連結会計期間より連結財務諸表を作成しているため、FY2026 3Q以降は連結、それ以前は当社単体の実績です。株式会社Anycloudは当第3四半期より損益（2026年6月1日～8月31日）を連結。
※ 不正検知サービス＝不正検知サービス「O-PLUX」、アドフラウド対策サービス「X-log」。
※その他＝SaaS型BNPLシステムの売上を含むその他売上。

© Cacco Inc.

2026年12月期 第3四半期｜連結売上高のサービス別構成比の推移

ストック性の高い主力サービスである不正検知サービスのFY26 3Q累計連結売上高構成比は84.3%（YoY +1.5pt）※1で着地。

連結売上高のサービス別構成比推移

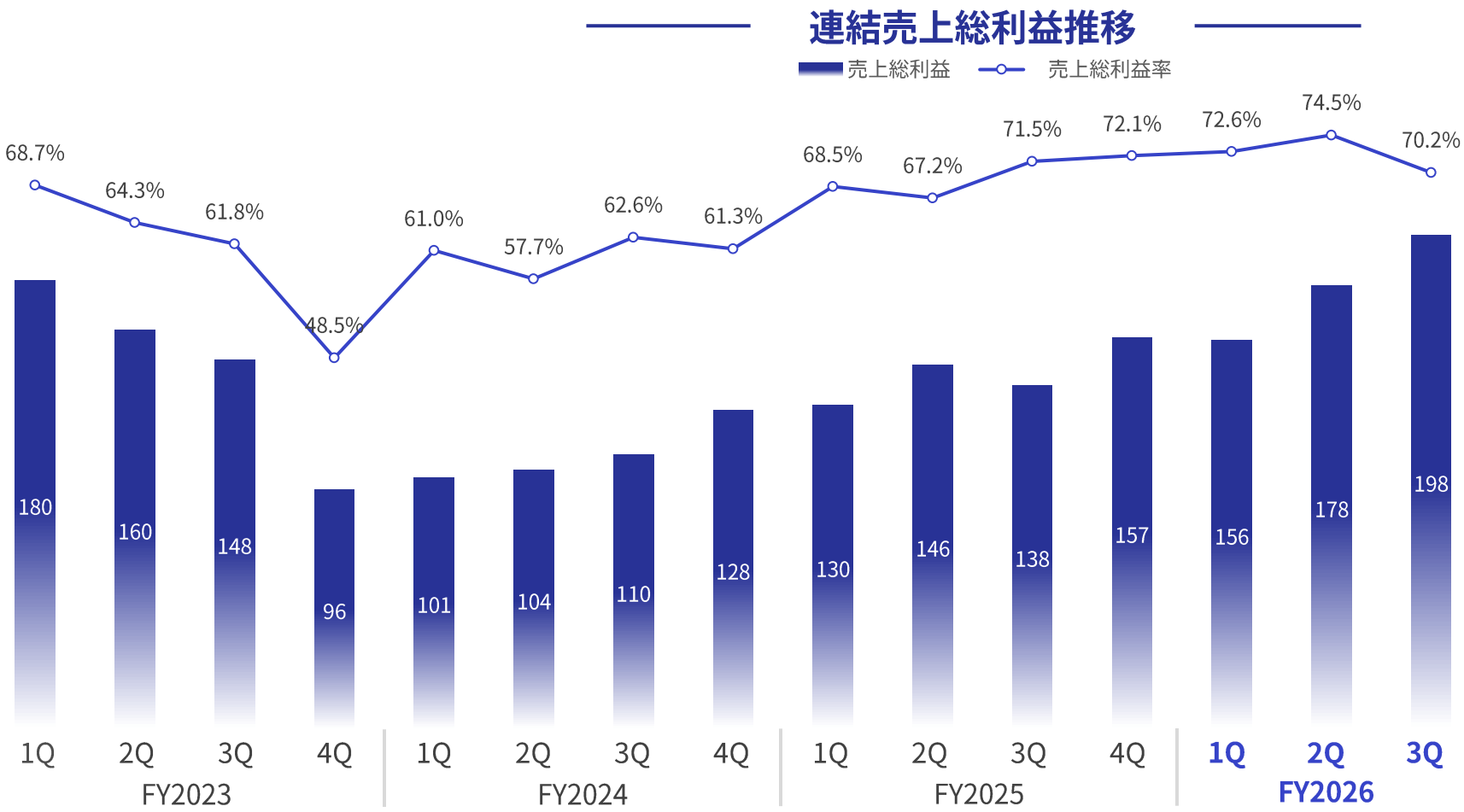


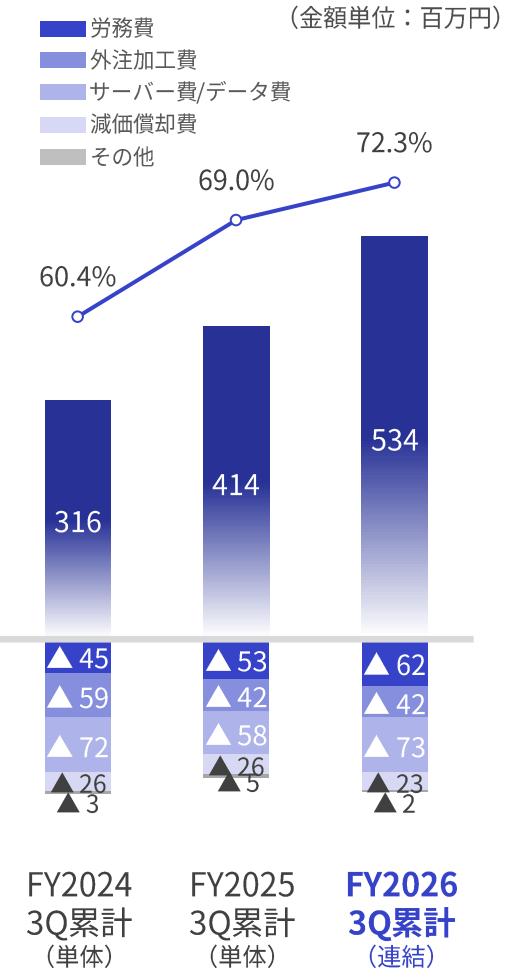
※1 当社は第2四半期連結会計期間より連結財務諸表を作成しているため、FY2026 3Q以降は連結、それ以前は当社単体の実績です。株式会社Anycloudは当第3四半期より損益（2026年6月1日～8月31日）を連結。
※ 不正検知サービス＝不正検知サービス「O-PLUX」、アドフラウド対策サービス「X-log」。
※その他＝SaaS型BNPLシステムの売上を含むその他売上。

© Cacco Inc.

2026年12月期 第3四半期｜連結売上総利益の推移

FY26 3Q累計連結売上総利益は534百万円（YoY +28.8%）※1、売上総利益率は72.3%（YoY +3.3pt）で着地。
- 売上原価は前年同期比9.8%増加（サーバー費/データ費、Anycloud連結）も、売上高の伸び（+22.9%）が上回り利益率が改善。





※1 当社は第2四半期連結会計期間より連結財務諸表を作成しているため、FY2026 3Q以降は連結、それ以前は当社単体の実績です。株式会社Anycloudは当第3四半期より損益（2026年6月1日～8月31日）を連結。

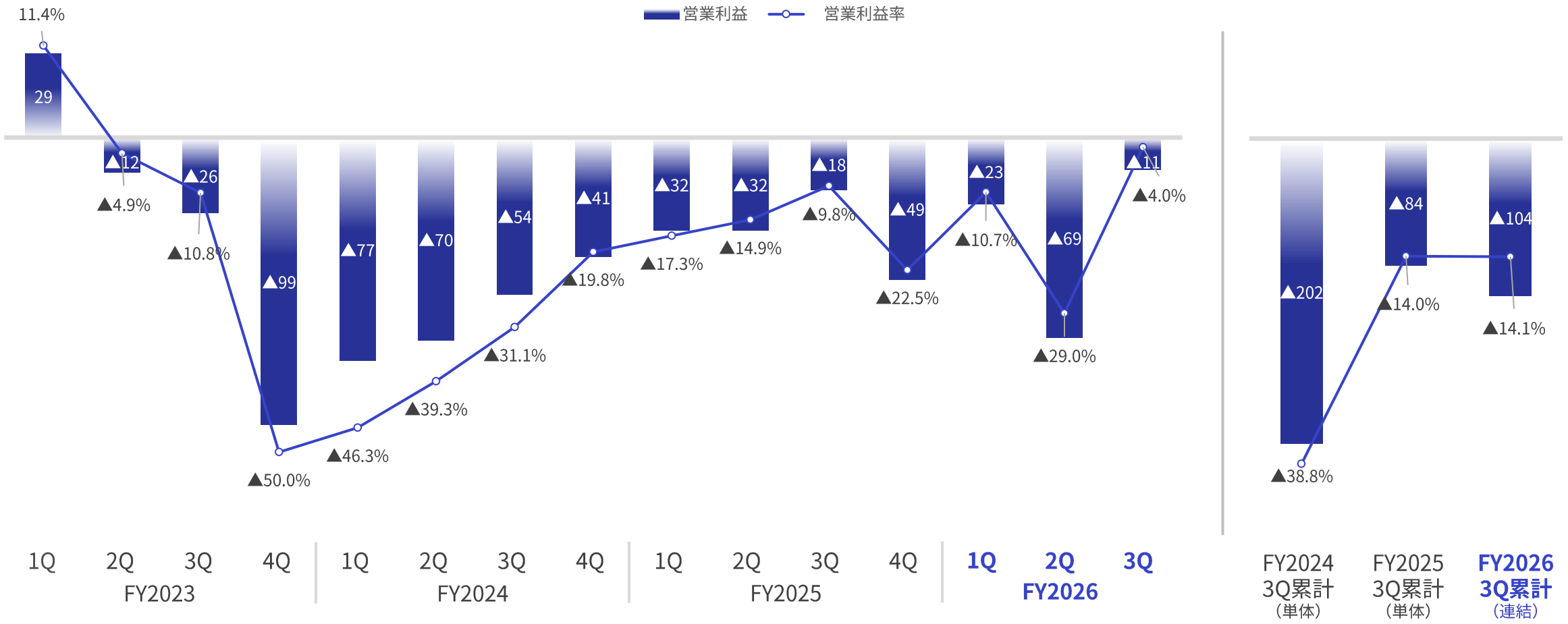
© Cacco Inc.

2026年12月期 第3四半期｜連結営業利益の推移

FY26 3Q累計連結営業利益は▲104百万円、営業利益率は▲14.1%（YoY▲0.1pt）で着地。
- M&A・事業譲受に伴う一過性費用36百万円を除くと▲67百万円となり、前年同期（▲84百万円）から17百万円改善

連結営業利益の推移

（金額単位：百万円）



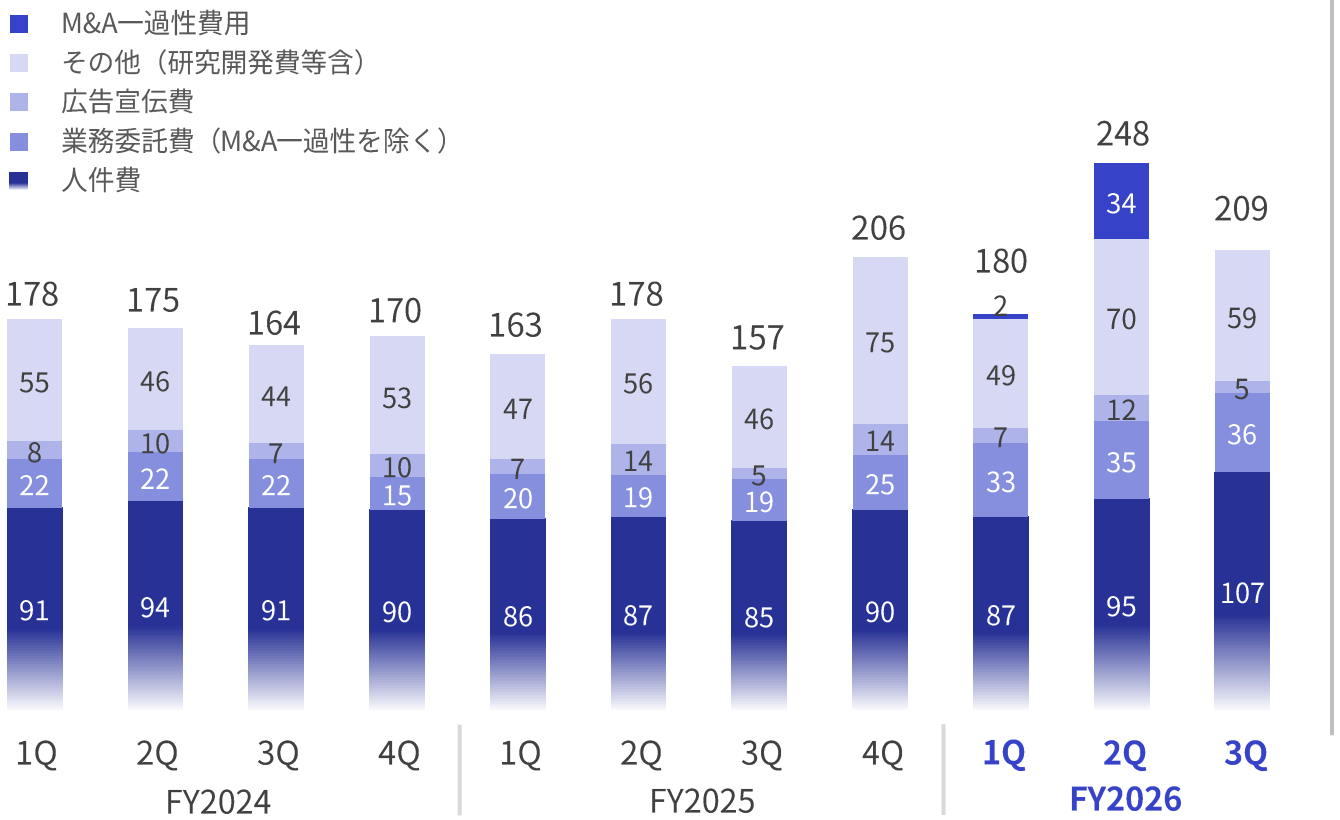
※ 前年同期は当社単体の実績との参考比較。株式会社Anycloudは当第3四半期より損益（2026年6月1日～8月31日）を連結。
※ M&A・事業譲受に伴う一過性費用36百万円＝株式会社Anycloud株式取得に係るアドバイザリー費用等28百万円＋仲介手数料等7百万円（決算短信の取得関連費用36,770千円。いずれも上期に計上）。金額は百万円未満切捨のため、差額が一致しない場合があります。

2026年12月期 第3四半期｜連結販売費及び一般管理費の推移

FY26 3Q累計の連結販管費は638百万円（前年同期比 +139百万円）。うち36百万円はM&A・事業譲受に伴う一過性費用。
- 一過性費用を除く増加は+102百万円で、増収（+137百万円）を下回る。販管費率（一過性費用除き）は83.0%→81.4%に改善。

（金額単位：百万円）

連結販管費推移



連結販管費の内訳（前年同期比）

区分	FY25 3Q累計（単体）	FY26 3Q累計（連結）	増減
人件費	259	**290**	**+30**
業務委託費	60	**105**	**+45**
広告宣伝費	28	**26**	**▲1**
その他（研究開発費等含）	150	**179**	**+28**
M&A一過性費用	0	**36**	**+36**
合計	**499**	**638**	**+139**

増加139百万円の内訳

M&A・事業譲受に伴う一過性費用	**+36**
その他（業務委託費・Anycloud連結など）	**+102**

販管費率（一過性費用除き） **83.0% → 81.4%**

増加102百万円のうち、Anycloud連結による増加が18百万円（のれん償却5百万円を含む）、業務委託費が+45百万円。

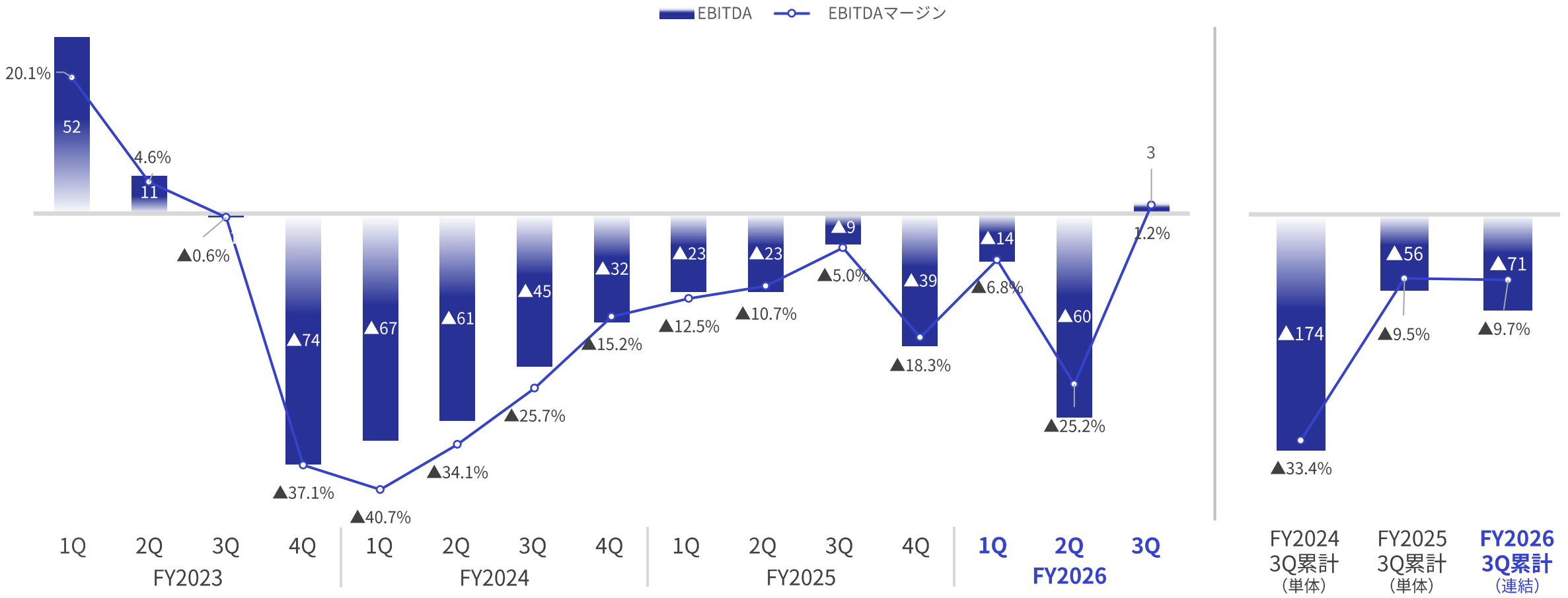
※ 当社は第2四半期連結会計期間より連結財務諸表を作成しているため、前年同期は当社単体の実績と比較しています（決算短信では前年同期比を記載していないため参考比較）。株式会社Anycloudは当第3四半期より損益（2026年6月1日～8月31日）を連結。
※ M&A・事業譲受に伴う一過性費用36百万円＝株式会社Anycloud株式取得に係るアドバイザリー費用等28百万円＋仲介手数料等7百万円（決算短信の取得関連費用36,770千円。いずれも上期に計上）。金額は百万円未満切捨のため、内訳の合計と一致しない場合があります。

2026年12月期 第3四半期｜連結EBITDAの推移

FY26 3Q累計連結EBITDAは▲71百万円、EBITDAマージンは▲9.7%（YoY ▲0.2pt）。
第3四半期（7月～9月）では3百万円と黒字に転換。

連結EBITDA推移

（金額単位：百万円）



※1　前年同期は当社単体の実績との参考比較。株式会社Anycloudは当第3四半期より損益（2026年6月1日～8月31日）を連結。
※2　EBITDA＝営業損益＋減価償却費＋のれん償却費（のれん償却費：FY26 3Q累計6百万円）

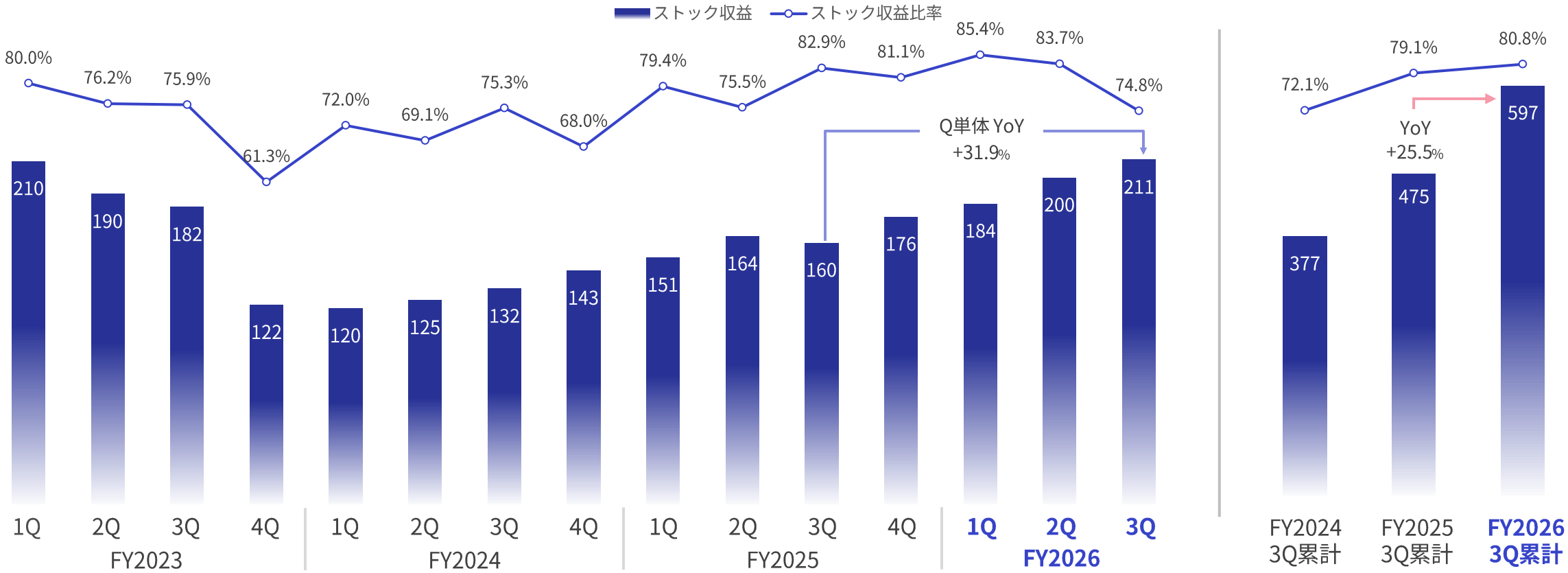
© Cacco Inc.

2026年12月期 第3四半期｜不正検知サービスのストック収益の推移

FY26 3Q累計不正検知サービスのストック収益は597百万円（YoY +25.5%）、ストック収益比率は80.8%（YoY +1.7pt）で着地。
- 「O-PLUX Account Protection」（不正ログイン対策）の導入数拡大による増収（+74百万円、寄与率61%）が主因。
- 「O-PLUX Payment Protection」（+32百万円）、アドフラウド対策サービス（+14百万円）も寄与。

（金額単位：百万円）

― 「不正検知サービス」のストック収益の推移 ―



※1 ストック収益＝不正検知サービスの定額課金である月額料金＋審査件数に応じた従量課金である審査料金（「不正チェッカー」、アドフラウド対策サービス「X-log」を含む）。SaaS型BNPLシステム売上を除く。
※2 ストック収益比率＝ストック収益÷売上高。売上高はFY2026 3Q以降が連結、それ以前は当社単体。株式会社Anycloudは当第3四半期より損益（2026年6月1日～8月31日）を連結。Anycloudの売上はストック収益に含みません。

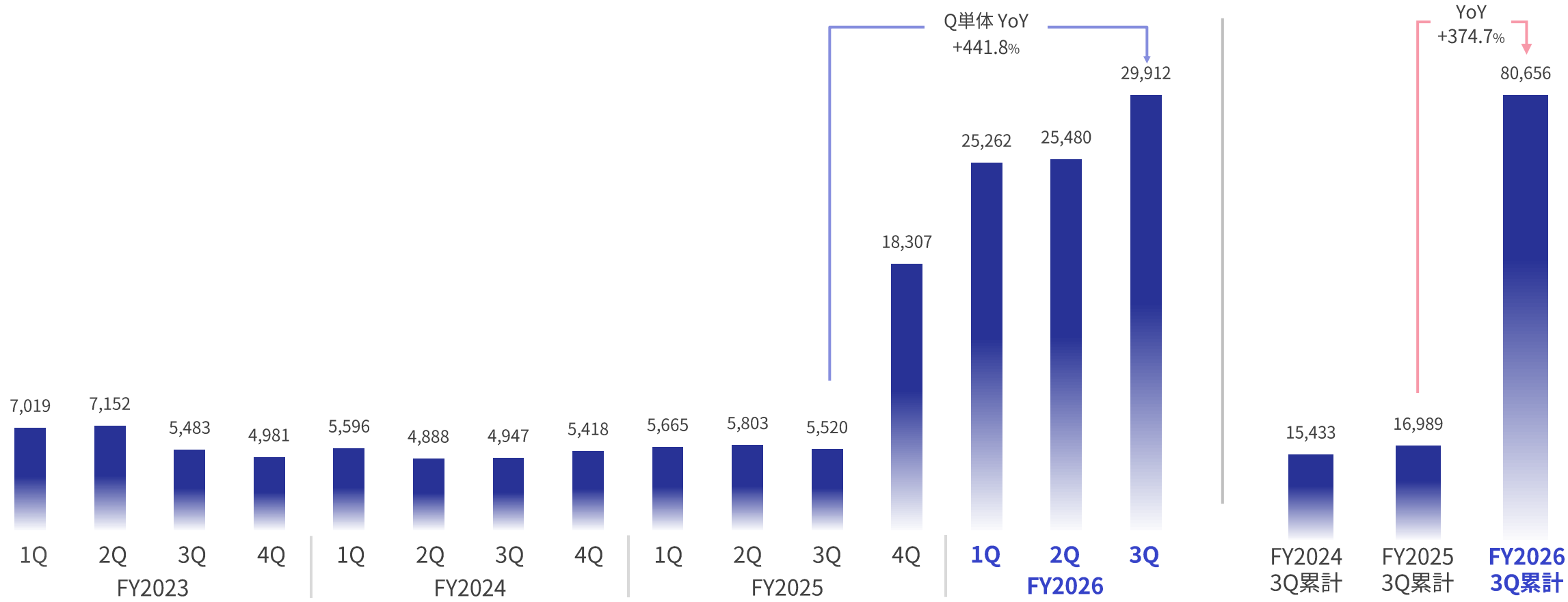
© Cacco Inc.

2026年12月期 第3四半期｜「O-PLUX Account Protection」の審査件数推移

不正検知サービス「O-PLUX Account Protection」のFY26 3Q累計審査件数は、導入数増加によりYoY +374.7%と大きく増加。
- 不正ログイン対策の需要増により導入数が増加し審査件数が大幅に増加。

「O-PLUX Account Protection」の審査件数推移

（審査件数単位：万件）



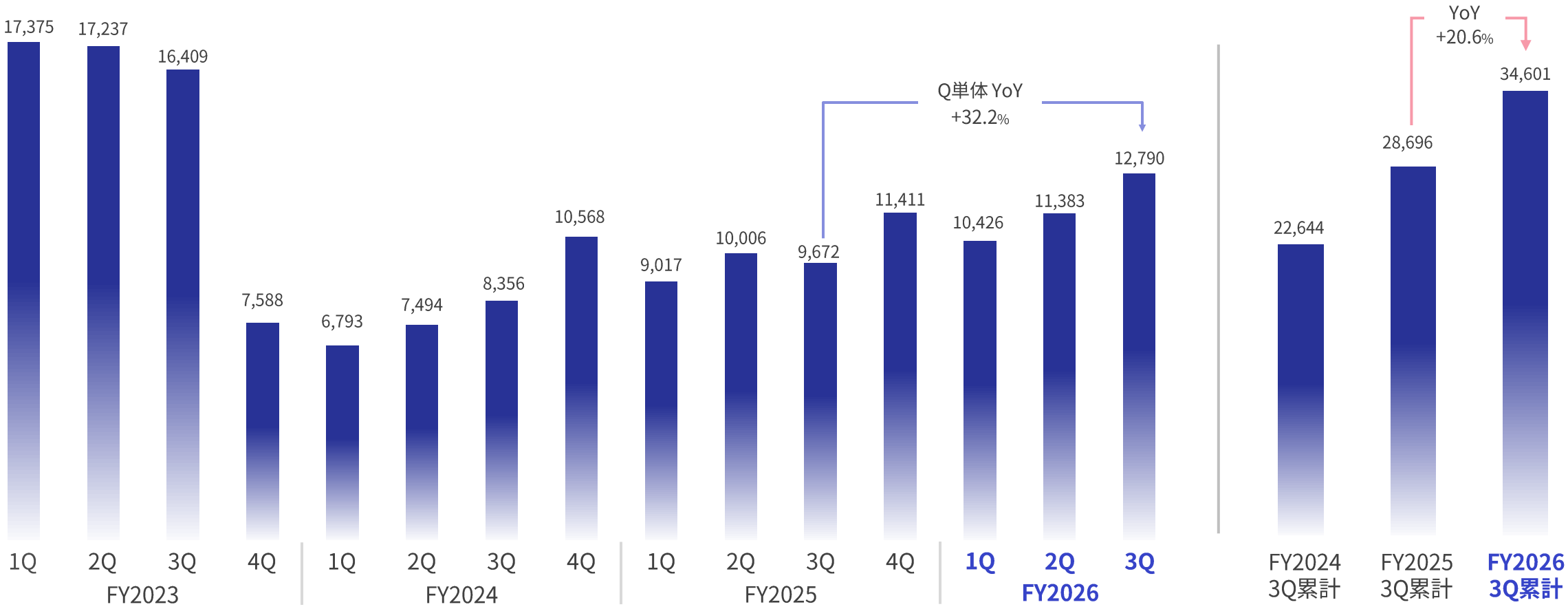
© Cacco Inc.

2026年12月期 第3四半期｜「O-PLUX Payment Protection」の審査件数推移

不正検知サービス「O-PLUX Payment Protection」のFY26 3Q累計審査件数は、YoY +20.6%と増加を継続。

「O-PLUX Payment Protection」の審査件数推移

（審査件数単位：千件）

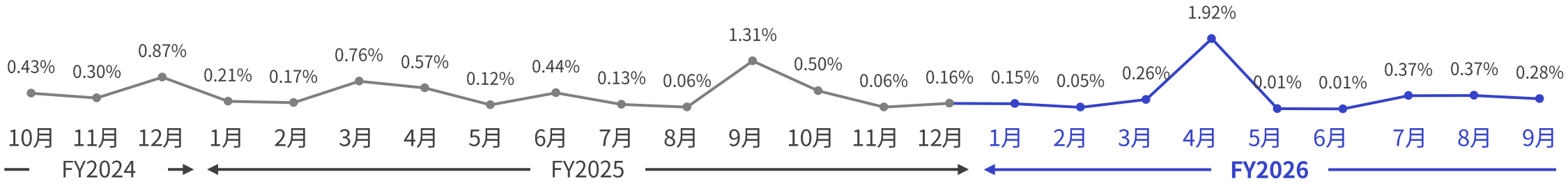


© Cacco Inc.

2026年12月期 第3四半期｜不正検知サービス「O-PLUX」の月次解約率の推移（直近24カ月）

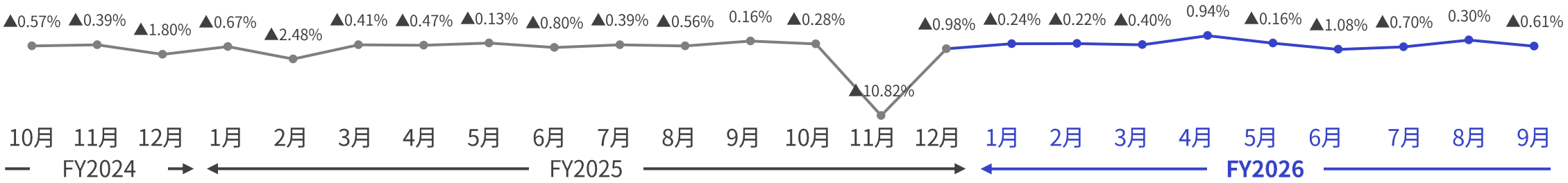
不正検知サービス「O-PLUX」のFY26 3Q累計平均月次解約率は0.38%（YoY ▲0.04pt）と引き続き低水準で推移。

Gross解約率



※Gross解約率＝当月解約ストック収益の年間平均÷当月初時点のストック収益（SaaS型BNPLシステムを除く）

Net解約率



※Net解約率＝（当月解約ストック収益の年間平均－当月新規ストック収益）÷当月初時点のストック収益　（SaaS型BNPLシステムを除く）

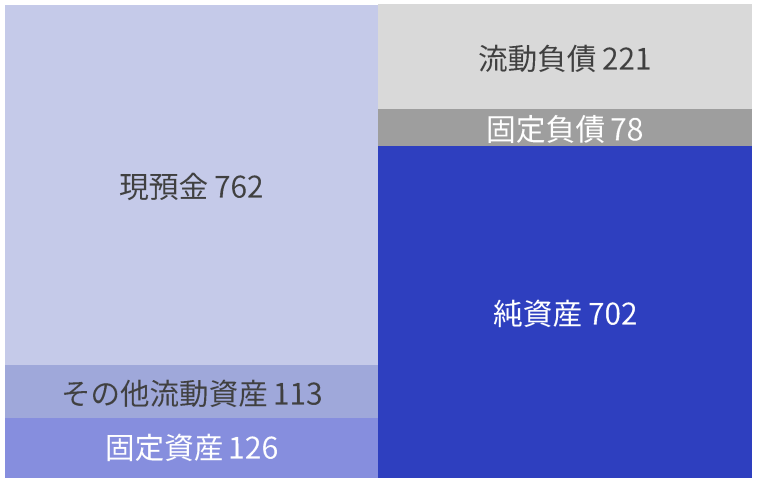
© Cacco Inc.

2026年12月期 第3四半期｜貸借対照表

2件のM&Aでのれん165百万円を計上し、固定資産が増加。取得資金247百万円の借入（9月末残高238百万円）で流動負債が増加。純資産は四半期純損失121百万円（投資有価証券評価損14百万円を含む）により減少し、自己資本比率は56.9%（前期末70.1%）。財務制限条項※2は十分な水準を維持。

（金額単位：百万円）

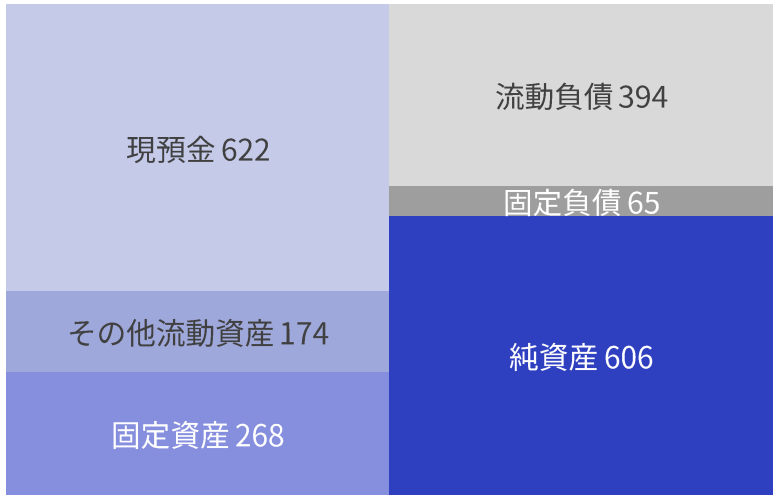
FY2025 4Q（非連結）



総資産 **1,002**百万円

自己資本比率：**70.1**%

FY2026 3Q（連結）



総資産 **1,066**百万円

自己資本比率：**56.9**%

現預金　▲139

M&A関連 ▲307（取得関連費用28・X-log仲介手数料7を含む）
Anycloud取得 ▲247／X-log譲受 ▲23（対価18.5＋引継ぎ支援5.0）
借入 +238（借入247−返済8.8）／Anycloud現預金 +109／他 ▲179

固定資産　+142

のれん +165（Anycloud 146・X-log 18）
投資有価証券評価損 ▲14 等

流動負債　+173

短期借入金 +238
その他流動負債 ▲65

純資産　▲95

四半期純損失 ▲121
新株発行 +27／その他有価証券評価差額金 ▲2

※1 当社は第2四半期連結会計期間より連結財務諸表を作成（前期末は当社単体・参考比較）。株式会社Anycloudは当第3四半期より損益（2026年6月1日～8月31日）を連結。
※2 借入金には財務上の特約が付されており、連結現預金450百万円以上・連結純資産250百万円以上の維持等が定められている。

© Cacco Inc.

2026年12月期
通期連結業績見通し

Forecast Financial Results of FY2026

2026年12月期 連結業績見通し｜サマリ

（金額単位：百万円）

	FY2025 通期実績（単体）	FY2026 期初予想（単体）	FY2026 修正予想（単体）	FY2026 業績予想（連結）	YoY 増減
売上高	819	**900**	**956**	**1,058**	+29.2%
(不正検知サービス売上高)	685	801	846	846	+23.6%
営業利益	▲133	**▲112**	**▲141**	**▲182**	-
(営業利益率)	▲16.3%	▲12.5%	▲14.8%	▲17.3%	-
経常利益	▲137	**▲116**	**▲150**	**▲191**	-
(経常利益率)	▲16.7%	▲13.0%	▲15.7%	▲18.1%	-
当期純利益	▲137	▲117	▲164	▲206	-
EPS（円）	▲50.45	▲42.95	▲59.54	▲74.72	-

連結売上高 YoY +29.2%

主力の不正検知サービスが堅調に推移していることに加え、2026年4月1日付で譲り受けたアドフラウド対策サービス「X-log」と、2026年6月より連結を開始した株式会社Anycloudの売上が寄与。2026年12月期の連結売上高は1,058百万円（YoY +29.2%）を見込む。

連結営業利益 ▲182百万円

連結営業利益は▲182百万円。個別業績予想（▲141百万円）に、Anycloud取得関連費用28百万円とのれん償却約12百万円を織り込む。「X-log」事業の取得・統合に伴う一過性費用と、監査報酬等の増加も影響。プロダクト開発力強化に向けた採用投資は継続。

連結当期純利益 ▲206百万円

親会社株主に帰属する当期純利益は▲206百万円。投資有価証券評価損14百万円（現金支出を伴わない）を特別損失に計上。

※ 2026年12月期より連結財務諸表を作成しているため、FY2025通期実績・FY2026期初予想・FY2026修正予想は個別（単体）の数値です（修正予想は2026年8月13日公表）。YoYは前期個別実績との参考比較です。連結業績予想は、株式会社Anycloudのみなし取得日を2026年5月31日とし、2026年6月から12月までの7カ月間の損益を取り込む前提です。連結の当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益です。

© Cacco Inc.

（参考）2026年12月期｜一過性要因を除いた通期業績見通し（単体）

M&Aの実行に伴う一過性費用および投資有価証券評価損を除いたベースでは、通期営業損益は▲76百万円と、当初計画（▲112百万円）を35百万円上回る見通し。これらは当期限りの費用であり、来期以降は発生しない。

M&Aに伴う一過性費用・投資有価証券評価損を除くと、営業損益は当初計画を上回る見通し

（金額単位：百万円）	通期計画 (A)	一過性要因を除く見込業績 (B)	差異 (B−A)	(参考) 修正予想
売上高	900	935	+34	956
売上総利益	650	685	+34	―
販売費及び一般管理費	763	761	▲1	―
営業損益	▲112	▲76	+35	▲141
経常損益	▲116	▲82	+34	▲150
当期純損益	▲117	▲82	+35	▲164

除外した一過性要因（来期以降は発生しない）

- M&Aの実行に伴う費用（仲介・アドバイザリー報酬、DD費用、借入関連手数料 等）
- 投資有価証券評価損 14百万円（特別損失／現金支出を伴わない）
- いずれも当期限りの費用であり、来期以降の損益には影響しない

※ のれん償却費およびアドフラウド対策事業の運営費用は来期以降も継続

※1 一過性要因＝M&Aの実行に伴う費用および投資有価証券評価損。のれん償却費（単体：X-log分 年約2.5百万円。連結ではAnycloud分を含め年約24百万円）およびアドフラウド対策事業の運営費用は来期以降も継続します。
※2 本ページは社内管理ベースの単体通期見込であり、開示している通期業績予想（個別）とは集計範囲が異なります。金額は百万円未満切捨のため内訳の合計と一致しない場合があります。
※3 2026年8月13日公表の個別業績予想に基づく見通しです。第3四半期決算発表時点で通期業績予想に変更はありません。

© Cacco Inc.

FY2026 成長戦略

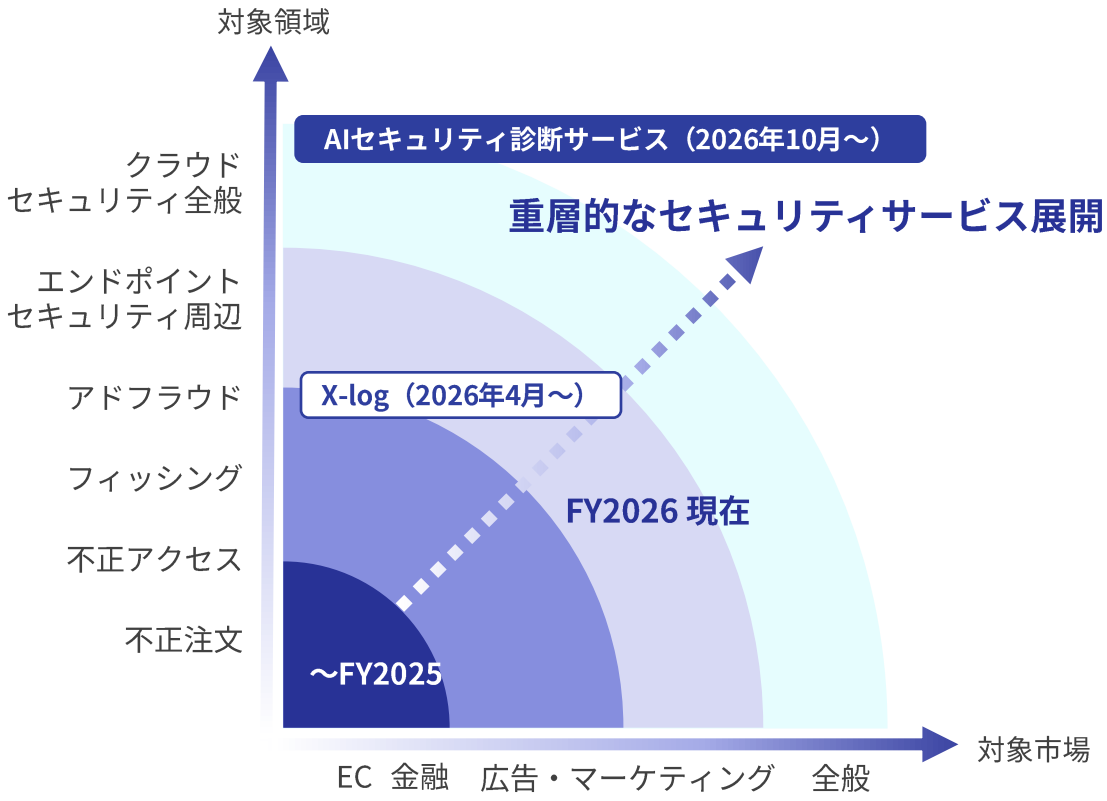
FY2026 Growth Strategy



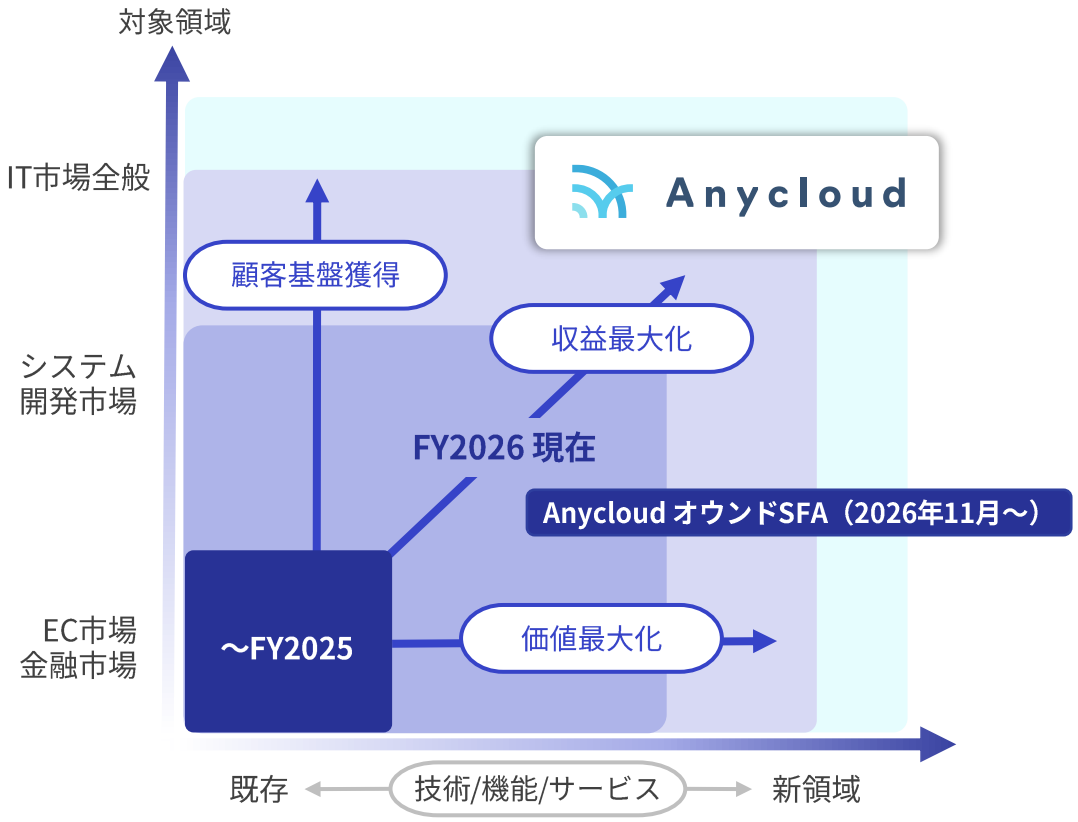
Caccoの目指すロードマップ

主力である不正検知サービスを基軸としてセキュリティ領域を拡大・深耕し、重層的なセキュリティサービスポートフォリオの構築を目指す。 さらに、戦略的な業務提携やM&Aにより事業領域を拡張し、企業価値の最大化を追求していく。

セキュリティ領域拡大



業務提携・M&Aによる事業領域拡大



© Cacco Inc.

不正検知サービス領域において日本トップのサイバーセキュリティ企業として信頼されるサービスを提供するために「価値向上」と「領域拡大」を続ける

1 ドメイン単位での市場開拓戦略の更なる推進

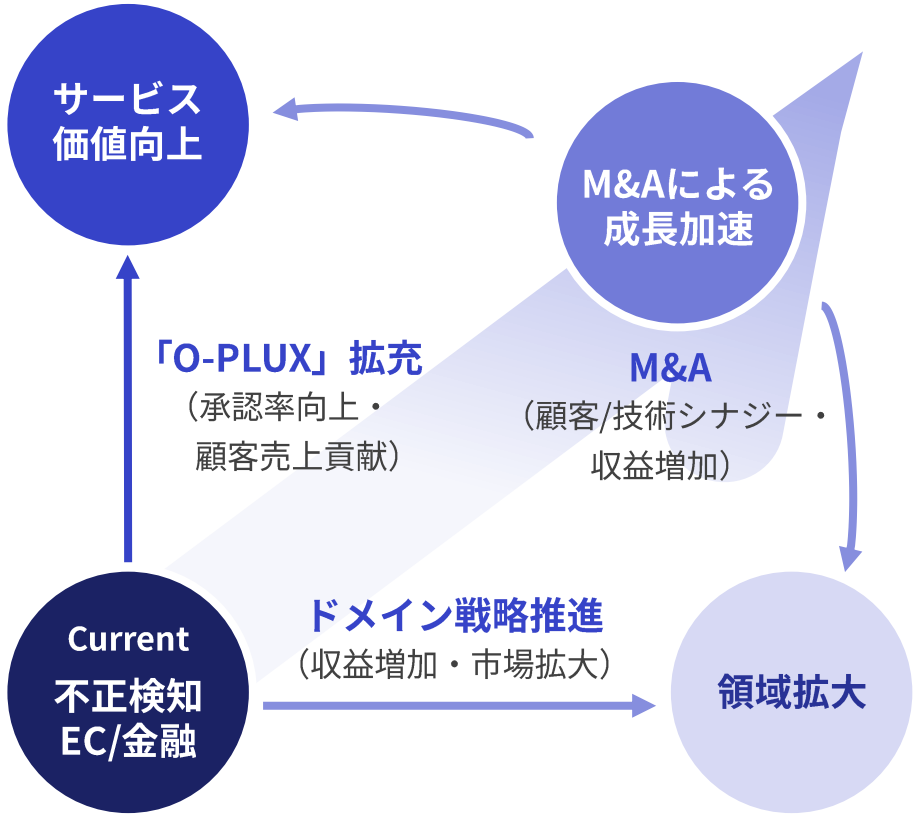
前期に引き続き、EC・金融・海外・新領域の各ドメインにおいて更なる拡大を推進。

2 不正検知サービスの機能拡充・シェア拡大

クレジットカード決済承認率の向上とEMV-3Dセキュア※1運用パターンの最適化を軸に、競合差別化をはかるとともに、Shopifyアプリ等への対応も強化しサービス価値向上を追求。
金融機関との取引実績拡大によるリレーション深耕、新規導入拡大を推進。

3 M&A・業務提携による成長加速

M&A・業務提携により新規事業領域・既存事業周辺技術を獲得し、成長を加速させる。

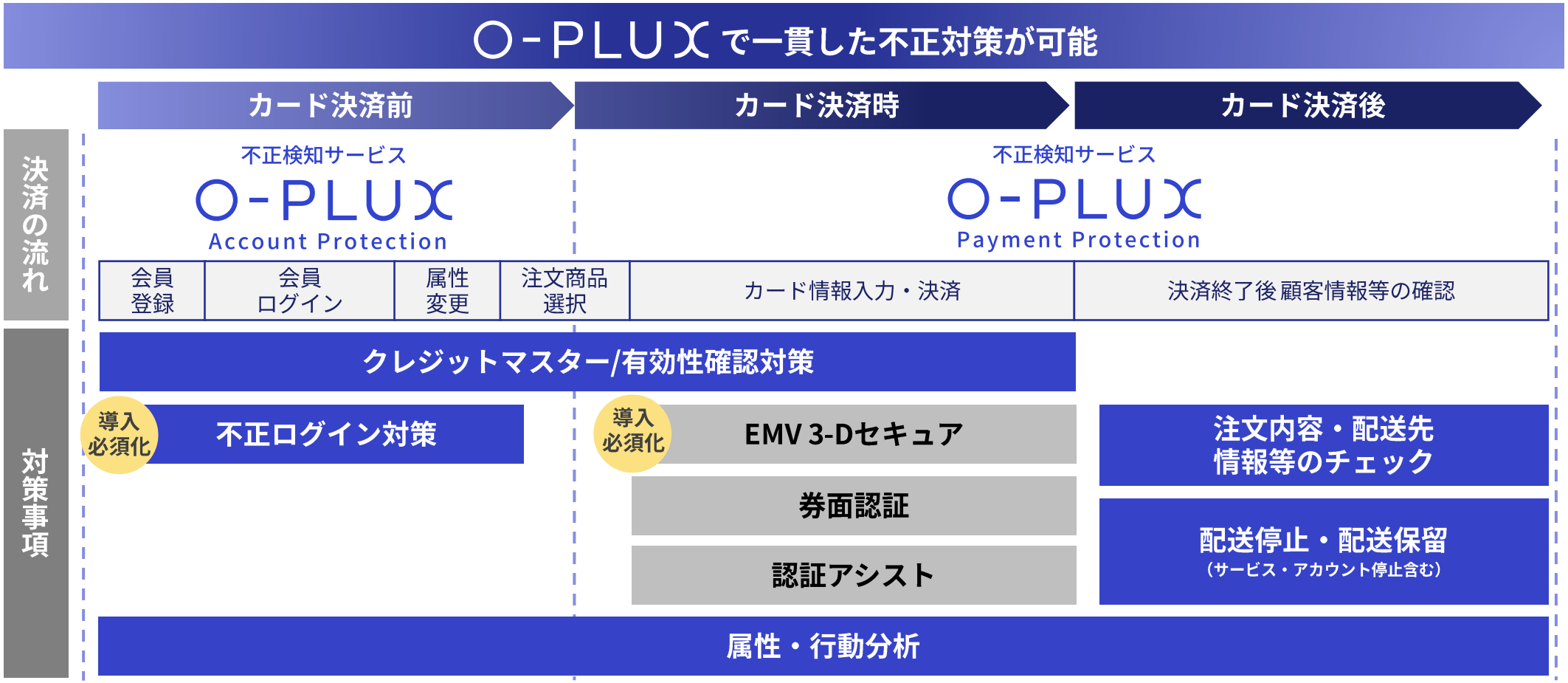


※1インターネット上でクレジットカード決済をより安全に行うために、国際カードブランドが推奨する本人認証サービス。各ブランドごとに名称は異なるが、総称して「EMV 3-Dセキュア」と呼ばれる。

© Cacco Inc.

FY2026 成長戦略｜市場環境　―不正利用対策レギュレーション強化の追い風―

2026年3月に公表されたクレジットカード・セキュリティガイドライン※1において、EMV 3-Dセキュア※2および不正ログイン対策の導入が必須とされるなど、EC加盟店にとって、クレジットカード取引の流れを「線」として捉え、その線上の各タイミングにおいて適切な不正利用対策を講じることが重要となった。そうした「線の考え方」に基づく一貫した対策が可能なCaccoの不正検知サービスにとって良い市場環境になりつつある。



※1：クレジットカード・セキュリティガイドライン【6.1版】（クレジット取引セキュリティ対策協議会） 2026年3月。EMV 3-Dセキュア・不正ログイン対策の導入必須化は【6.0版】（2025年3月）から継続
※2： EMV 3-Dセキュア：インターネット上でクレジットカード決済をより安全に行うために、国際カードブランドが推奨する本人認証サービス。各ブランドごとに名称は異なるが、総称して「EMV 3-Dセキュア」と呼ばれる。

■ = 「O-PLUX」で対応可能

FY2026 成長戦略｜ドメイン単位での市場開拓戦略の更なる推進

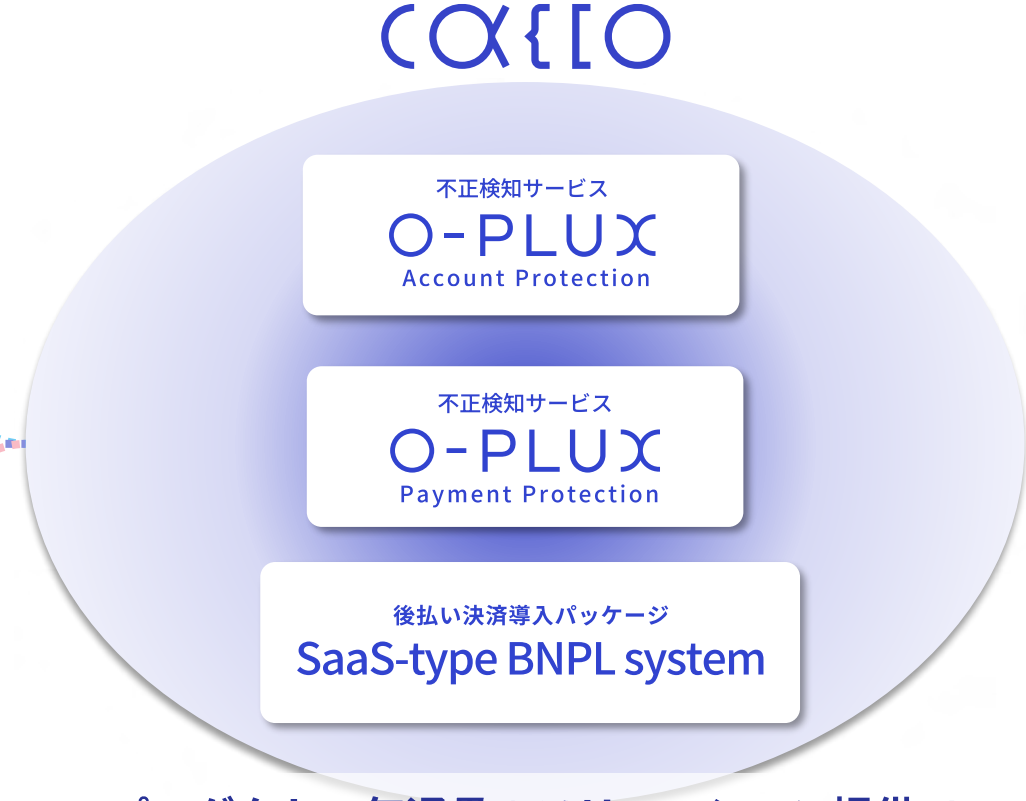
前期より進めている「ドメイン単位での市場開拓戦略」をさらに推進し、各ドメインにおいて当社サービスを拡大していく。

各ドメインのTAM※1

ECドメイン
国内EC不正対策市場　約240~360億円※2

金融ドメイン
国内金融不正対策市場　約720~960億円※3

海外ドメイン
海外不正対策市場（日本除く）　約4.3~7.4兆円※4



プロダクト一気通貫のソリューション提供で
市場ドメイン毎にアプローチ

※1：TAM =（Total Addressable Market：獲得可能な最大市場規模）
※2：IMARC Group「Japan Fraud Detection and Prevention Market Report 2024-2033」（2024年）の予測値を基に、1ドル=150円で換算し、ECセグメント比率を仮定して当社が独自に推計。
※3：IMARC Group「Japan Fraud Detection and Prevention Market Report 2024-2033」、MarketsandMarkets「Fraud Detection and Prevention (FDP) Market - Global Forecast to 2030」の市場データを基に、グローバル市場におけるBFSI（銀行・金融サービス・保険）セグメントの構成比率を適用し、当社が独自に推計。
※4：MarketsandMarkets「Fraud Detection and Prevention (FDP) Market - Global Forecast to 2030」および Research and Markets「Fraud Detection and Prevention Global Market Report 2025」の予測値を基に推計。1ドル=150円で換算。
※不正対策 =本資料における「不正対策」とは、不正検知・防止ソリューション（ルールベース・AI）、認証・本人確認（eKYC・3Dセキュア等）、および金融犯罪対策（AML/CFT）システムを指し、関連するシステム構築（SI）や運用保守等のサービス費用を含む。

© Cacco Inc.

不正被害の深刻化

クレジットカード不正利用被害は年間400億円を超える水準で推移しており、EC事業者における対策ニーズは依然として高い水準に。

新たな課題「承認率低下」

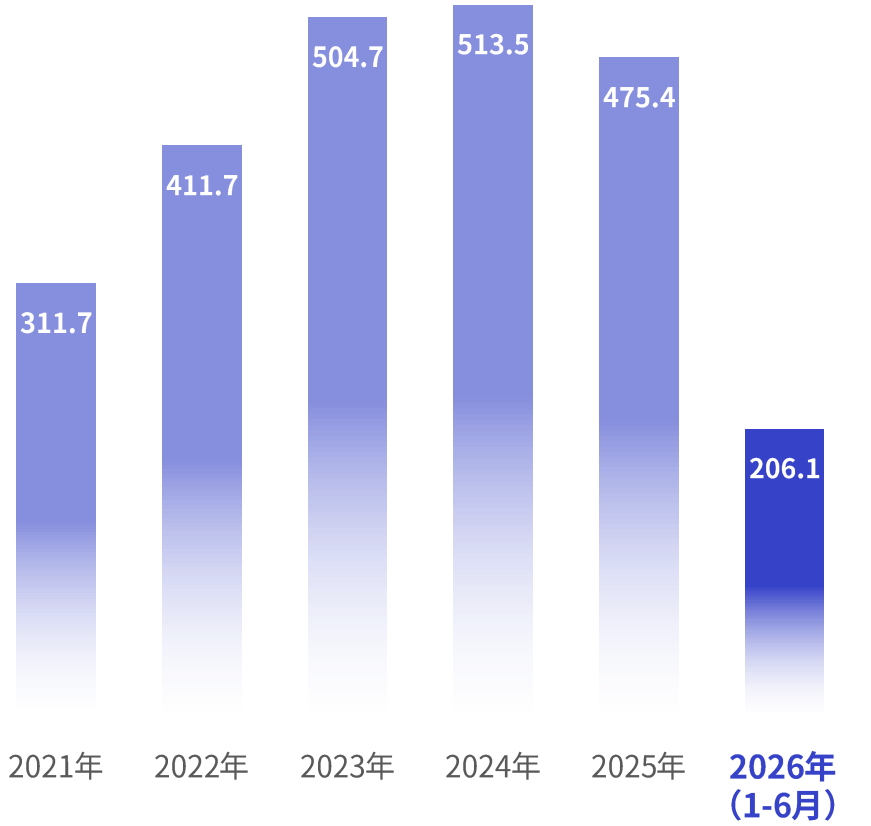
不正利用対策レギュレーション強化※1によりセキュリティ強化（EMV 3-Dセキュア義務化）が進む一方で、不正被害の責任は「加盟店」から「カード会社」へ移行。 これによりカード会社が審査基準を厳格化した結果、決済承認率が低下。

「カゴ落ち対応」のニーズ増加

真正なユーザーが本人認証の手間を嫌い、離脱してしまう「カゴ落ち」（＝EC事業者の販売機会損失）が課題化。 「不正は止めたいが、売上は落としたくない」というEC事業者のニーズが高まっている。

― クレジットカード不正被害額（番号盗用）※2 ―

（単位：億円）



※1：2026年3月に公表されたクレジットカード・セキュリティガイドライン【6.1版】（クレジット取引セキュリティ対策協議会）において、EMV 3-Dセキュアおよび不正ログイン対策の導入が必須（必須化は【6.0版】（2025年3月）から継続）
※2：一般社団法人日本クレジット協会「クレジットカード不正利用被害の発生状況」。2026年より調査対象が40社から48社に変更されたため、2025年以前とは単純比較できない

© Cacco Inc.

EC領域

不正検知サービス

O-PLUX

Payment Protection

カード会社と連携し、承認率向上を起点とした「O-PLUXの成長サイクル」でシェア拡大

カード会社と連携し「O-PLUX」全件審査を推進、不正者取引がカード会社へ流れることを阻止

↓

クレカ決済承認率の向上・カゴ落ち（誤検知）防止

↓

顧客の売上最大化
機会損失を防ぎトップライン向上

↓

「O-PLUX」ニーズ増加
守りだけでなく、「売上増加のツールのひとつ」として認知

↓

「O-PLUX」の顧客基盤（シェア）の拡大
競合優位性の確立と新規獲得推進、審査データ増加

循環

実現のためのアクション

- **EMV-3Dセキュア運用の最適化：**
  リスクベース認証の適用を支援。真正なユーザーの認証をスキップさせ、購買完了率を高める。
- **カード会社との連携：**
  カード会社と連携し、加盟店が「O-PLUX導入による承認率向上→売上増」を定量的に実感できる環境を構築。
- **国内No.1の導入実績を活かした運用提案：**
  画一的なシステム提供ではなく、国内の不正傾向・商習慣に精通した当社独自の「きめ細やかで柔軟な運用チューニング」で承認率向上を実現する。

© Cacco Inc.

大手ネット証券を中心に不正アクセス被害が発生

2025年初頭から大規模な不正アクセスが急増
被害総額: 2025年1月～2026年9月の累計で不正売買額 約8,209億円。※1
被害件数: 不正アクセス 約1万9,000件、不正取引件数は累計10,642件。※1

手口の巧妙化と、漏えいした認証情報の悪用リスク

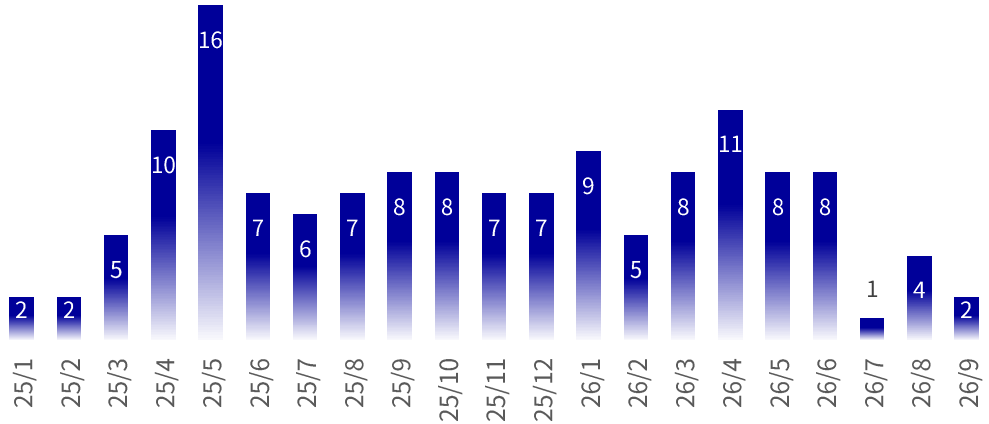
2026年秋、Webサービス・アプリへの不正アクセスによる情報漏えいが急増し、漏えい報告は10月前半だけで830件（9月の約2.7倍）※5。漏えいしたID/PWを悪用したリスト型攻撃や、マルウェア経由の「遠隔操作」、AIによる高度なフィッシングにより、従来のID/PW認証では防ぎきれなくなっている。

規制強化と業務負荷

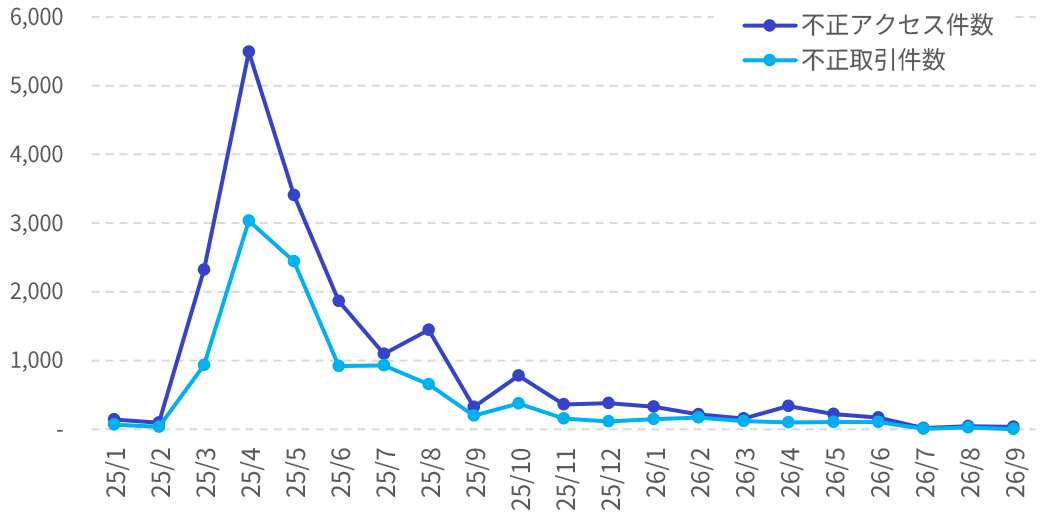
金融庁による監督指針※2等により、内部管理態勢の整備および口座開設・ログイン・取引時におけるセキュリティの確保等が求められ※3対策業務負荷が増大。
2026年10月には金融庁を含む関係機関が一斉に注意喚起を発出。

→ **多要素認証※4(MFA)必須化・不正アクセス検知必須化**

不正取引が発生した証券会社数推移※1



不正アクセス・不正取引件数推移※1



※1：金融庁「インターネット取引サービスへの不正アクセス・不正取引の発生状況」2026年10月更新
※2：金融庁「金融商品取引業者等向けの総合的な監督指針」2025年12月
※3：金融庁「金融商品取引業者等向けの総合的な監督指針」2025年12月 -（監督指針III-2-8-2-2）
※4：多要素認証（MFA：Multi-Factor Authentication）：種類の異なる2つ以上の証拠を組み合わせて本人確認を行うセキュリティの仕組み
※5：個人情報保護委員会 委員会資料（2026年10月28日）。不正アクセスによる個人データの漏えい等報告件数

© Cacco Inc.

金融領域

不正検知サービス

O-PLUX

**最新の金融業界での不正手口に対応し、
金融機関のセキュリティ対策パートナーとしてシェア拡大を図る**

金融特化の機能拡充

- 遠隔操作の検知
- 危険国からのアクセス検知
- 外部DB連携の拡充

一気通貫の対策訴求

口座開設審査 → ログイン → 取引の入口から利用までをシームレスに対策可能な体制構築を支援。

コンサルティング支援

- 内部管理態勢の構築支援
- 不正検知をはじめとしたデータサイエンス支援

© Cacco Inc.

国内の不正アクセス被害が過去最悪ペース

2026年は9カ月で前年1年分の被害件数を上回り、大規模な個人情報漏えいも前年を超えるペースで発生。※1※2

AIによる攻撃の自動化・高速化

AIが攻撃工程の大半を自律実行した事例も確認。国内でもAIを使った脆弱性スキャンやAPI経由の攻撃が確認されている。※3※4

年1回の診断では守りきれない

脆弱性はシステムを変えるたびに生まれる。2026年10月には独立行政法人情報処理推進機構（IPA）などが相次いで注意喚起を発出し、速やかな点検を要請。※5

継続的な脆弱性診断と、修正までの伴走が必須に

企業・自治体が公表した不正アクセス等の被害※1

600件

2026年1～9月（2025年は年間593件）

上場企業等による100万件以上の個人情報漏えい※2

10件

2026年10月5日時点（2025年通年は6件）

脆弱性が見つかってから悪用されるまでの中央値※3

24時間未満

公開アプリの脆弱性を突いた侵入は15%→24%に増加

※1：トレンドマイクロ株式会社による企業・自治体の公表情報の集計（共同通信 2026年10月6日報道）
※2：株式会社東京商工リサーチ（2026年10月7日公表、10月5日時点）
※3：Anthropic「Disrupting the first reported AI-orchestrated cyber espionage campaign」（2025年11月）／Microsoft「Digital Defense Report 2026」（2026年10月）
※4：JPCERT/CC 注意喚起（2026年10月8日、23日更新）
※5：独立行政法人情報処理推進機構（IPA）「不正アクセスによる漏えい等の事案を踏まえ、速やかに実施すべき対策等について」（2026年10月9日）

© Cacco Inc.

FY2026 成長戦略｜AIセキュリティ診断サービスの提供開始（Anycloud提供）

NEW｜2026年10月 提供開始

AIエージェントが攻撃者の視点で脆弱性を継続的に検証し、エンジニアが修正の完了まで伴走するセキュリティ診断サービス。
2026年10月に提供を開始。「O-PLUX」と合わせ、「攻撃」と「不正」の両面からオンライン事業を守る。

Offering

6領域

横断して診断する領域

コード・Webアプリ・API・インフラ等

1〜2週間

初回の診断期間の目安

隔離環境で、本番と実データに触れず実施

12万サイト以上

「O-PLUX」の累計不正対策実績

顧客基盤へ提案し、両面防御を一括提供

※診断期間は1システムあたりの目安（環境の準備を含む）。診断は書面で合意した範囲・期間・環境においてのみ実施します。

Our Approach

Anycloud

01 横断的な診断

コード・Webアプリ・API・インフラ・クラウド設定など6領域を一気通貫で診断し、影響度の高い順に整理。

02 継続的な診断

年1回のスポット診断ではなく定期的に診断を行い、修正済み箇所の再発有無も確認。

03 修正完了までの伴走支援

重大な脆弱性は、修正方針の策定から実装・本番反映まで、FDE型でエンジニアが支援。

© Cacco Inc.

2025年からの実績

2025年12月 業務提携

株式会社NTTデータ

本人認証基盤「ACS」に不正検知技術を提供し、決済の不正検知を高度化。

2026年4月 事業譲受

アドフラウド対策サービス「X-log」

Web広告流入段階のアドフラウド対策領域へ参入し、新たな収益源を獲得。

2026年6月 完全子会社化

株式会社Anycloud

AI・アプリ開発体制と技術者を獲得し、次世代プロダクト開発の基盤を構築。

2026年10月 サービス開始 提供：Anycloud

「AIセキュリティ診断サービス」提供開始

シナジー第一弾。AIで脆弱性を継続検証し「攻撃」と「不正」の両面から防御。

2026年11月 サービス開始 提供：Anycloud

「Anycloud オウンドSFA」提供開始

業務に合わせて構築し、自社の資産として保有できる営業支援システム。

収益・技術・事業の3軸シナジー

収益拡大

M&Aにより新たな収益源を即座に獲得し、トップラインの非連続な成長をめざす。

該当案件：X-log／Anycloud

既存事業シナジー

獲得した事業領域の顧客基盤・商材を既存のEC・金融ドメインと相互にクロスセルし、収益基盤を拡張。

該当案件：X-log

技術シナジー

特定技術を時間をかけずに獲得・実装することで、開発ロードマップを短縮し、製品競争力を向上。

該当案件：Anycloud／X-log

M&Aと業務提携により、Web広告集客からログイン・決済までを一気通貫でカバーする不正対策体制を構築

獲得した事業・技術を既存ドメインへ展開し、非連続な成長を加速する

© Cacco Inc.

FY2026 成長戦略｜シナジー創出の全体像と進捗

	短期 ～2026年12月	中長期 2027年1月～
プロダクトの高度化 検知精度と顧客体験	実施中 **既存プロダクトへのAI実装** 開発スピードとコストを同時に最適化 実施中 **管理画面のUX改善** 設計協働を開始 提供開始 **AIセキュリティ診断サービス** AIが攻撃者の目線で、システムの弱点を継続的に点検	検証中 **不正検知技術の高度化** 「O-PLUX」へのAI技術活用により識別精度と顧客体験を向上 実施中 **顧客向けレポーティングの高度化** 着手予定 **新規プロダクトの構築** 不正手口に先んじる次世代AIアルゴリズムと新サービスの開発
事業基盤の効率化 コストと生産性	提供開始 **Anycloud オウンドSFA** 業務に応じた柔軟な構築とコスト低減を両立する営業支援システム 実施中 **FDEモデルの国内展開** 国内で確立されていないモデルへの先行参入による事業機会	整備中 **顧客基盤の相互活用** 両社顧客への相互送客によりグループ全体の売上成長を図る。AIセキュリティ診断サービスを「O-PLUX」顧客へ提案 着手予定 **FDEモデルの領域拡大** 製造業など新たな業種へFDE型の開発支援を展開
組織・人材の融合 採用力と技術力	実施中 **採用力の強化** 「Progate共同創業者×AI開発×不正検知」を活かしたAI人材の獲得 実施中 **両社エンジニアによる技術交流**	着手予定 **AI活用ノウハウのグループ内展開・教育研修**

※ 上記発現時期の区分は説明上のものであり、いずれも検証・設計・PoC段階の取組で、成果および収益貢献の時期・規模を確約するものではありません。

© Cacco Inc.

Appendix

会社概要

Company profile

会社名	かっこ株式会社（Cacco Inc.）
所在地	東京都港区元赤坂一丁目５番31号
設立	2011年1月28日
事業内容	SaaS型アルゴリズム提供事業 （不正検知サービス、決済コンサルティングサービス、 データサイエンスサービス）
代表	代表取締役社長　岩井 裕之
上場市場	東京証券取引所グロース市場（証券コード 4166）
特許	特許第6534255号・特許第6534256号 特許第6860156号・特許第7840545号
認証	ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム） ISO/IEC 27001:2022 JIS Q 27001:2023　登録番号：IA120255 プライバシーマーク® 第10824248号

Cacco Evolutionary Purpose

未来のゲームチェンジャーの
「まずやってみよう」
をカタチに



© Cacco Inc.

Cacco Evolutionary Purpose

未来のゲームチェンジャーの「まずやってみよう」をカタチに

Cacco Evolutionary Purposeには、世の中をよりよくしていこうと挑戦する人や企業に寄り添い、日本経済の発展に貢献していきたいという想いが込められています。

創業当時、インターネット取引における不正は少なく、世の中に十分な機能を備えた不正検知サービスもありませんでしたが、私達は、近い将来、ECをはじめとするあらゆるインターネット取引において、多様かつ膨大な不正行為が発生するであろうと考えていました。

それから現在まで、私達の予想通り、不正行為はあらゆるインターネット取引において発生しており、その手口はより複雑化するとともに、さらに進化・拡大を続けております。『O-PLUX』は、2012年のリリース以降、進化する脅威にも十分対応できるよう開発を重ねてきた結果、現在では日本国内導入数No.1※のご評価をいただいております。

Caccoは、今後も、セキュリティ・ペイメント・データサイエンスの技術で新しい価値を作り上げる会社として、Cacco Evolutionary Purposeを実現し、企業価値の持続的な向上を目指してまいります。



※ 株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」2026年3月末日時点

© Cacco Inc.

サービス領域

広告集客からログイン、決済、データ活用まで、安全なネットインフラ構築をワンストップで支援

01 ADVERTISEMENT

Web広告・集客

X-log

AI・独自のアルゴリズムが広告不正クリック（アドフラウド）を解析し自動ブロック。アドフラウドによる広告費の無駄をリアルタイムで削減。

02 LOGIN CHECK

EC・金融機関・会員サイト

O-PLUX Account Protection

EC・金融機関・会員サイト等における不正アクセス・不正ログインをリアルタイムに検知。

鉄壁PACK for フィッシング

フィッシングメールやドメイン検知、なりすましログイン対策をワンストップで提供。

03 TRANSACTION

受注・決済システム

O-PLUX Payment Protection

EC決済、転売などにおける代金未払い等の不正注文をリアルタイムに検知。**国内導入実績No.1**※。

SaaS-type BNPL system

EC初期投資の掛からない後払い決済（BNPL※2）導入パッケージシステムを提供。

04 ANALYSIS

不正傾向・購買需要分析

データサイエンスサービス

AI・統計・数理最適化技術を用いた高度なデータ解析。
不正傾向分析のほか、小売業の需要予測や生産計画最適化など、あらゆる分野にデータ分析サービスを提供。

© Cacco Inc.

提供サービス一覧｜収益タイプ

SECURITY

不正検知

ストック収益

O-PLUX Payment Protection

EC決済、転売などにおける代金未払い等の不正注文をリアルタイムに検知。

O-PLUX Account Protection

EC・金融機関・会員サイト等における不正アクセス・不正ログインをリアルタイムに検知。

鉄壁PACK for フィッシング

フィッシングメールやドメイン検知、なりすましログイン対策をワンストップで提供。

X-log

Web広告の不正クリック（アドフラウド）を検知し広告費の無駄を削減。

PAYMENT

決済コンサルティング

フロー収益

決済コンサルティングサービス

決済事業者やBNPL導入検討事業者へのシステム提供およびBNPL事業コンサルティングを実施。
※審査エンジンには「O-PLUX」を使用。

ストック収益

SaaS-type BNPL system

初期投資の掛からない後払い決済導入パッケージ「SaaS型BNPLシステム」を提供。
ECショッピングカート・大手EC事業者などにも提供。

DATA SCIENCE

データサイエンス

ストック収益　フロー収益

データサイエンスサービス

AI・統計・数理最適化の技術を用いたデータ解析及びアルゴリズムの開発・提供。

- 製造業の最適な生産計画作成
- 小売業の需要予測
- コールセンターの最適シフト作成

など、あらゆる分野にデータサイエンスサービスを提供。

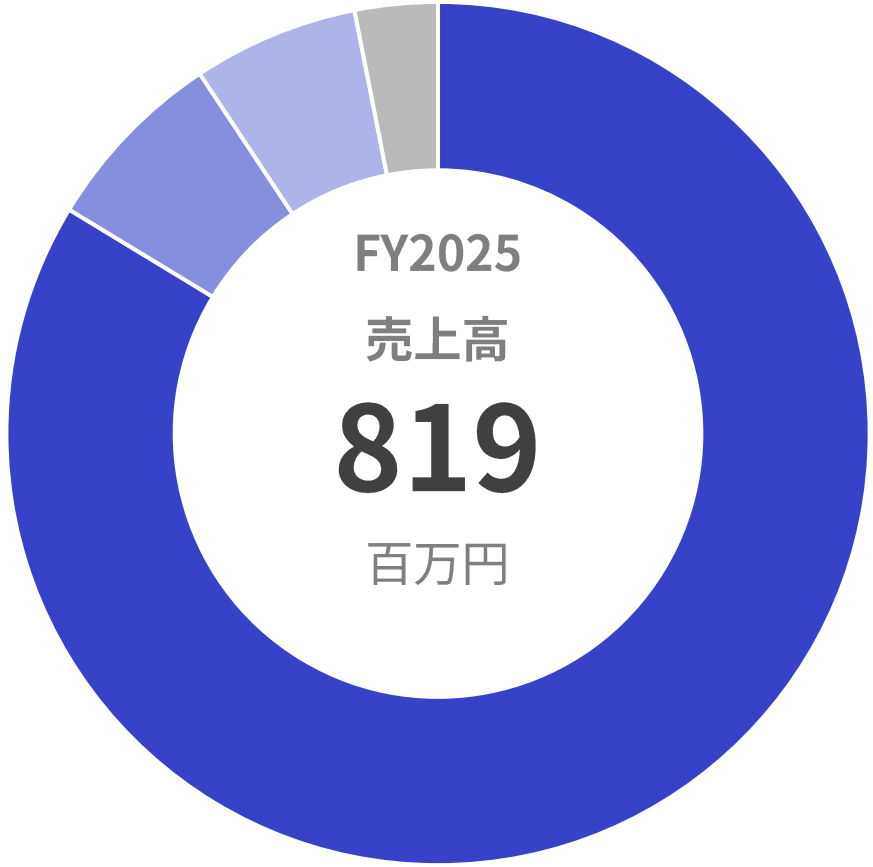
© Cacco Inc.

売上高の構成

83.6%

不正検知サービスが
圧倒的な成長ドライバー。

当社の売上の8割以上を占めるのは、ストック型収益を基盤とする「不正検知サービス」。
安定した収益基盤の上に、データサイエンスや決済コンサルティングといった周辺領域が積み上がる構造となっている。

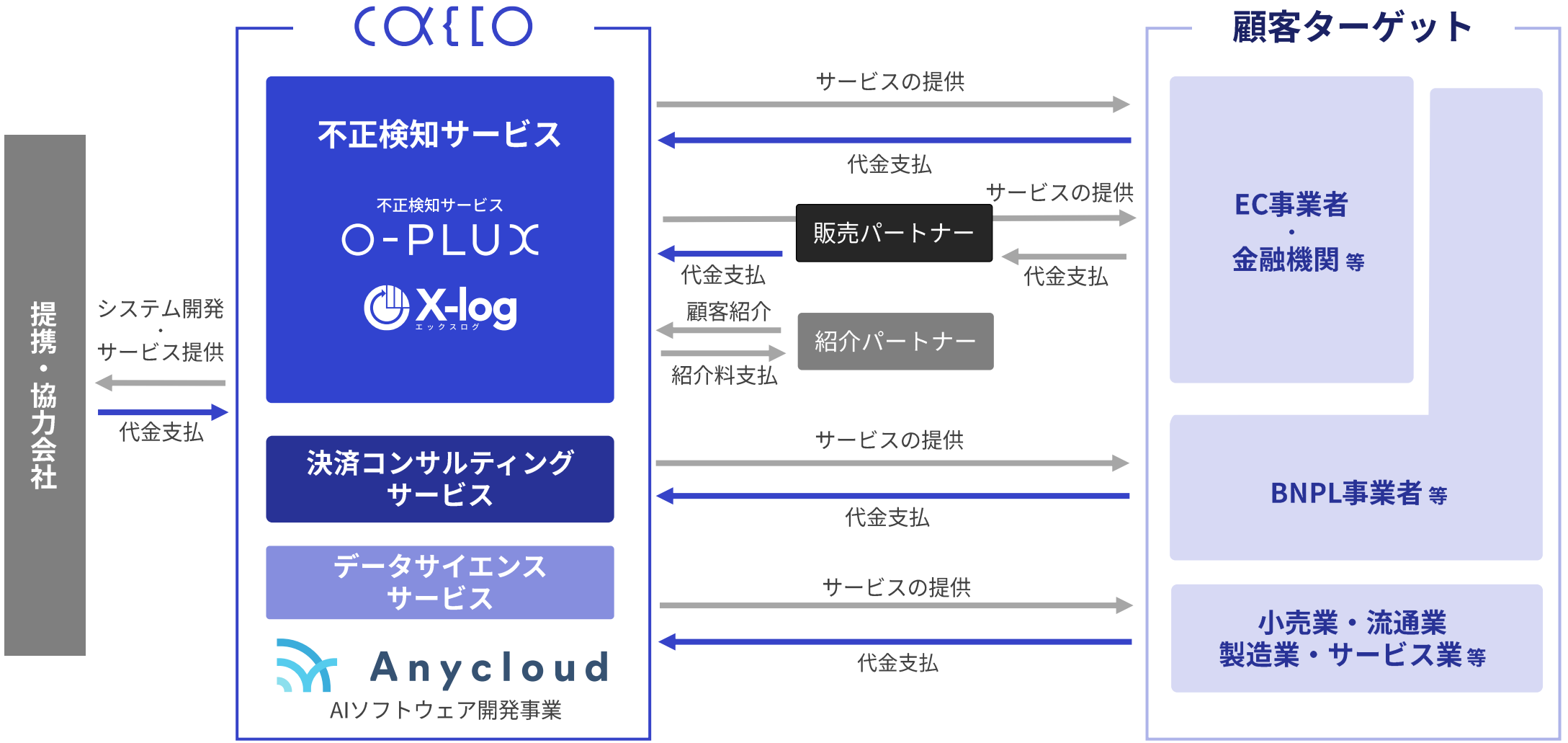


不正検知サービス	83.6%	データサイエンスサービス	7.1%
決済コンサルティングサービス	6.2%	その他	3.1%

※その他＝SaaS型BNPLシステムの売上を含むその他売上

© Cacco Inc.

商流・顧客ターゲット



© Cacco Inc.

不正検知サービス導入事例｜総合小売企業 様

CLIENT

総合小売企業 様

年間流通額：約70億円

課題

ECサイトにおけるクレジットカードの不正利用が多発。
被害額は、**最大1,000万円/月**に達していた。

対策

不正検知サービス「O-PLUX」を導入。
リアルタイム検知による不正防止体制を構築。

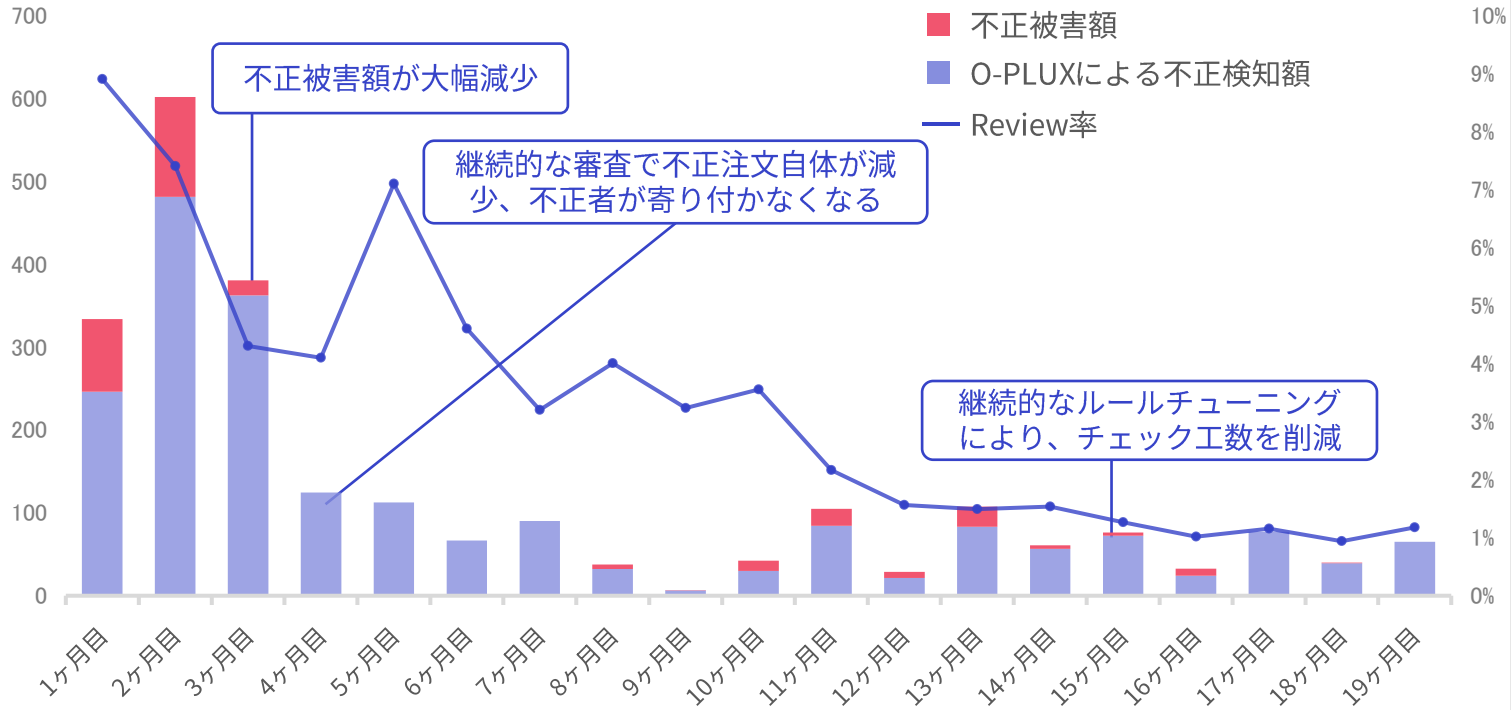
導入成果

2.5億円 相当（5年間累計）

導入初年度に1億円クレジットカード不正利用被害を未然に検知・防止

導入後の不正被害・検知額推移

（単位：万円）



成果のポイント

導入直後から不正被害額が激減。継続利用により、不正注文自体も沈静化、REVIEW（目視確認）率も低下し業務効率が向上。

※不正を検知した金額とは、審査結果「NG」または審査結果「REVIEW」でカード属性の不一致、出荷前の本人確認等によりチャージバックとなる前に不正確定（ネガティブ登録）された取引の合計金額。
※Review率とは、審査件数全体に対する審査結果「REVIEW」の件数の割合。

© Cacco Inc.

不正検知サービス導入事例｜株式会社イープラス

株式会社イープラス

チケット販売サイト「e+」

チケット販売

追加認証件数を当初想定の1/30に削減。
ユーザーの利便性と不正ログイン対策を両立。

e+ イープラス

導入の背景・課題

全件認証では利便性が低下、アクセス集中への耐性も必要

全件認証ではユーザーの利便性が低下する懸念があった。
また、人気公演の発売日など、急激なアクセス増大時でもシステムに影響が出ない対策が求められていた。

導入前の状況

認証方式の課題	**全件認証は利便性が低下**
負荷の想定	**人気公演発売日のアクセス集中**
求める要件	**セキュリティと利便性の両立**

導入効果・評価

追加認証の削減	導入後のクレーム	アクセス集中時
1/30	0件	影響なし

O-PLUXが評価された理由

- **リスクベース認証**
  疑わしい取引のみを追加認証の対象とし利便性を維持。
- **高負荷への耐性**
  急激なアクセス増大時もトラブルなく安定稼働。

セキュリティを強化しつつ、追加認証を当初想定の1/30に抑制

※ 各社の許諾を得て公開している導入事例に基づく。 https://cacco.co.jp/frauddetection/case_studies/eplus

© Cacco Inc.

不正検知サービス導入事例｜ぴあ株式会社

ぴあ株式会社

チケット販売サイト「チケットぴあ」

チケット販売

リスクベース認証により、疑いのあるユーザーのみ追加認証。
幅広い年齢層の利便性を損なわず、なりすましログインを根絶。

導入の背景・課題

機械的な攻撃と幅広い年齢層への配慮の両立

短期間のアクセス集中時に、機械的ななりすましログイン攻撃が発生していた。
一方でユーザーの年齢層が幅広いため、認証の複雑化による利便性低下は避けたいという制約があった。

導入前の状況

発生していた攻撃	**機械的ななりすましログイン**
発生タイミング	**短期間のアクセス集中時**
制約条件	**幅広い年齢層の利便性を維持**

導入効果・評価

なりすましログイン	追加認証の対象	真正ユーザー
0件	**疑わしい場合のみ**	**利便性維持**

O-PLUXが評価された理由

- **機械的アクセスの検知**
  O-PLUXで機械的なアクセスを検知しログイン前に遮断。
- **段階的な認証設計**
  OK・Review・NGの3段階で必要な取引のみ追加認証。

リスクベース認証により、利便性を維持したままなりすましログインを根絶

※各社の許諾を得て公開している導入事例に基づく。 https://cacco.co.jp/frauddetection/case_studies/t-pia-after-introduction

© Cacco Inc.

不正検知サービス導入事例｜大手金融機関

大手金融機関

会員向けサイト

金融

ログの可視化により、モニタリング工数を大幅削減。
端末特定技術で、IPアドレスに依存しない高度な対策を実現。

導入の背景・課題

ログは記録するも可視化されず、手動監視に膨大な工数

ログの記録はしていたが可視化されておらず、手動モニタリングに膨大な工数が発生していた。
IPアドレスのみの制御では限界があり、精度の高いネガティブリストの管理が必要だった。

導入前の状況

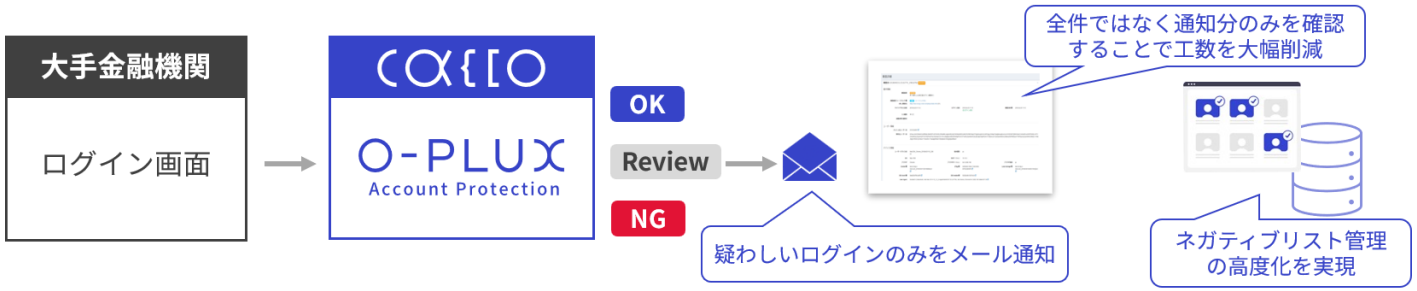
ログの状態	**記録はあるが可視化されず**
監視方法	**手動モニタリングで膨大な工数**
制御の限界	**IPアドレスのみでは精度不足**

導入効果・評価

モニタリング工数	ネガティブリスト	確認対象
大幅削減	**管理の高度化**	**通知分のみ**

O-PLUXが評価された理由

- **アクセスの可視化**
  ユーザー毎のアクセスデータを可視化し疑わしい動きのみ通知。
- **端末特定技術**
  IPアドレスだけでなく端末特定情報を含めた管理を実現。



疑わしいログインのみを通知する運用で、監視工数と検知精度を同時に改善

© Cacco Inc.

不正検知サービス導入事例｜株式会社LIXIL

株式会社LIXIL

公式通販サイト「LIXILストア」

住宅設備

トライアルで97%のブロック率を記録。検討開始から1カ月足らずで本導入し、月間数百万円規模の被害抑制と運用負荷ゼロを両立。

おうちのモノとコト、いろいろ。
LIXILストア

導入の背景・課題

サイト統合以降、3Dセキュアをすり抜ける不正が急増

2023年に複数サイトを統合して以降、クレジットカードの不正利用が急増。手口は本人認証サービス「3Dセキュア」をすり抜けるほど巧妙で、被害額は月間数百万円規模に達していた。

狙われたのは浄水カートリッジ・高機能シャワーヘッド・窓拭きロボット「HOBOT」など換金性の高い商品。担当者は毎日30分超を目視チェックに費やし、出荷停止や商品回収の対応にも追われ、本来注力すべきカスタマーサービス業務を圧迫していた。

導入前の状況

被害額	**月間数百万円規模**
目視チェック	**毎日30分超**
狙われた商品	**浄水カートリッジ・シャワーヘッド等**

導入効果・評価

トライアル時のブロック率	検討開始から本導入まで	システム開発
97%	**1カ月未満**	**不要**

O-PLUXを選定した理由

- **確実な検知精度**
  実注文データのトライアルで97%のブロック率を記録。
- **根拠の透明性**
  ブロック理由が明確で、運用の納得感が得られた。

換金性の高い商品を狙う巧妙な不正手口に対し、検知精度と導入スピードを両立

※各社の許諾を得て公開している導入事例に基づく。 https://cacco.co.jp/frauddetection/case_studies/lixil

© Cacco Inc.

不正検知サービス導入事例｜株式会社パルコ

株式会社パルコ

公式通販サイト「ONLINE PARCO」

モール型EC

EMV 3-Dセキュアを補完し、購入者と出店テナントの双方を保護。
多様なジャンルを扱うモール型ECのモニタリング負荷を軽減。

PARCO

導入の背景・課題

幅広いジャンルを扱うモール型ECならではの監視負荷

「ONLINE PARCO」は、ショッピングセンターPARCOに出店する多様なブランドのテナントや、アート・カルチャー・エンターテインメント関連ショップが集まるモール型ECサイト。

ファッション・雑貨・食品・エンタメグッズ・アート・チケット等、幅広いジャンルを取り扱うため注文状況に対するモニタリングが煩雑だった。EMV 3-Dセキュア等の対策は既に導入済みだったが、不正手口の巧妙化が進むなか、購入者とブランド双方の保護の観点でさらなる強化が必要だった。

導入前の状況

サイト形態	**モール型EC**
取扱ジャンル	**ファッション・雑貨・食品・アート等**
既存対策	**EMV 3-Dセキュア等を導入済み**

導入効果・評価

既存対策との関係	守る対象	取扱ジャンル
補完	**購入者＋テナント**	**多岐**

入念な比較検討を経てO-PLUXを選定

- **総合評価で選定**
  有効性・検知精度・運用支援・コストを総合的に判断。
- **独自DBと機械学習**
  加盟店単独では得られない独自DBで高精度な検知。

EMV 3-Dセキュアを補完し、モール型ECの多様な商材に応じた不正対策を実現

※各社の許諾を得て公開している導入事例に基づく。 https://cacco.co.jp/frauddetection/case_studies/parco

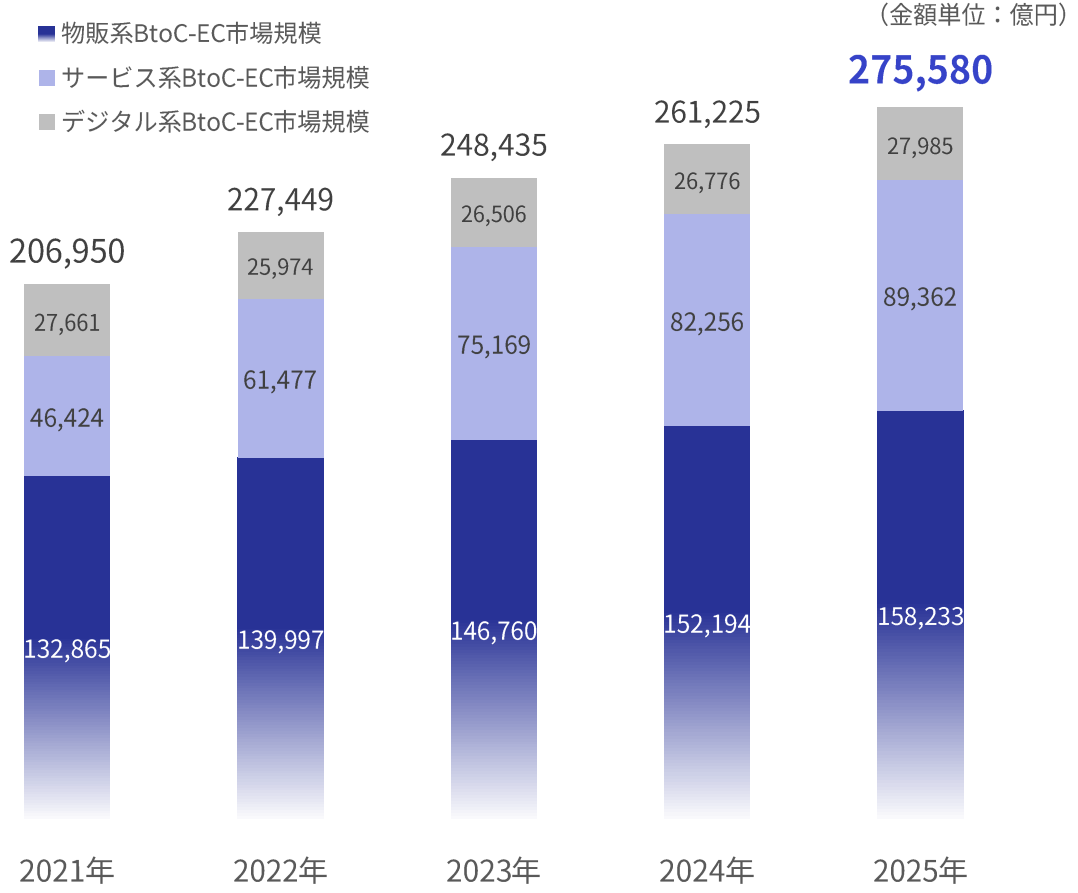
© Cacco Inc.

市場環境｜日本のEC市場の成長と不正被害の状況

EC市場の拡大が続く中、クレジットカードの不正被害（番号盗用被害）は年間400億円超の高い水準で推移。
- 割賦販売法改正、「クレジット・セキュリティ対策ビジョン2025」が公表される等、不正対策に対する社会的需要が高まっている。

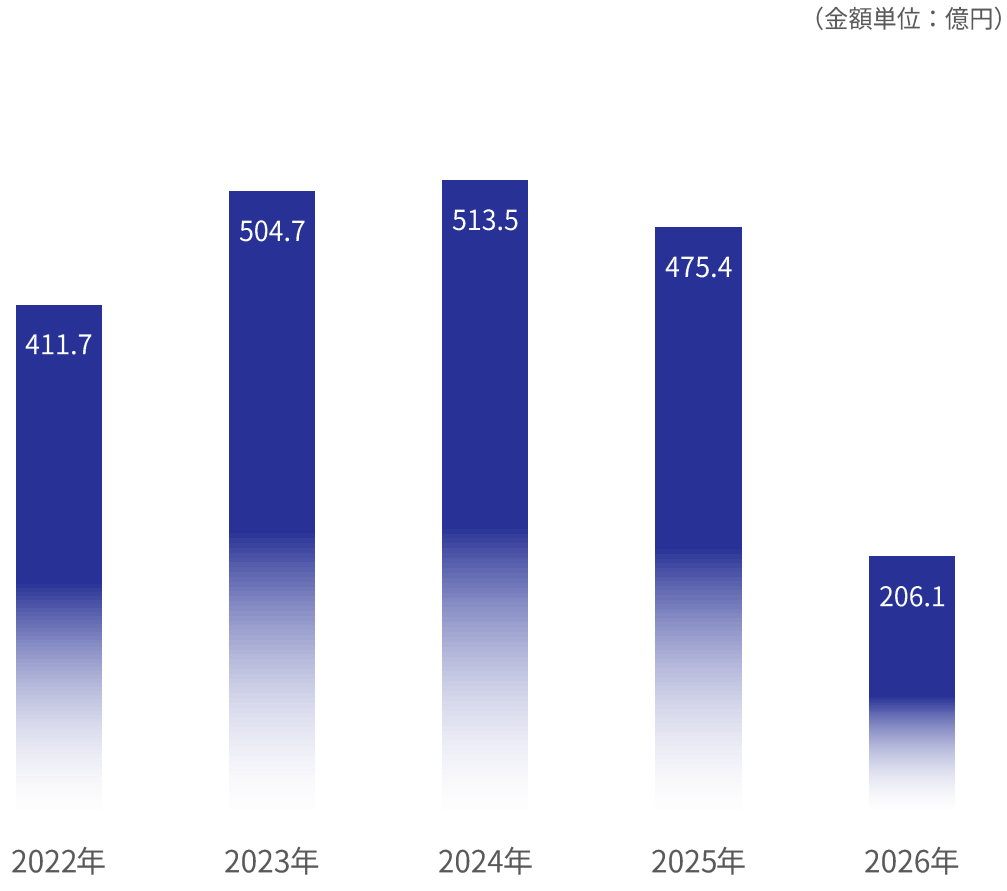
日本のBtoC-EC市場規模

（金額単位：億円）



日本のクレカ不正被害額（番号盗用）

（金額単位：億円）



※経済産業省「令和7年度 電子商取引に関する市場調査報告書」
一般社団法人日本クレジット協会「クレジットカード不正利用被害の発生状況」（2026年より調査対象を40社から48社に変更）

© Cacco Inc.

競合優位性

01

TECHNOLOGY

データサイエンスノウハウ
×
セキュリティ技術力

高度なデータ解析技術と、セキュリティ領域における専門的なエンジニアリング力を融合。他社にはない独自のアルゴリズム開発を実現。

取得特許
4件
特許第6534255号・6534256号・6860156号・7840545号

02

TRACK RECORD

EC領域とペイメント領域における当社サービス導入数
国内No.1の実績

EC領域およびペイメント領域において、圧倒的な導入シェアを獲得。豊富な運用実績が、さらなる検知精度の向上という好循環を生み出す。

不正検知サービス 導入サイト
12万サイト以上
「O-PLUX」を通じた累計の不正対策実績

※ 株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」2026年3月末日時点

03

STOCK REVENUE

不正検知サービスの
堅調なストック収益

メインサービスである不正検知サービスは、継続的なストック収益モデル。安定した収益基盤が、全社の成長を牽引している。

ストック収益比率（FY25通期）
79.7%
通期売上高に占める不正検知サービスのストック収益

© Cacco Inc.

中核サービスである不正検知サービス「O-PLUX」の競争優位性

3つの差別化要因が循環し、競争優位性を継続的に強化

01

大量のデータ保有

国内不正注文データを大量に保有。
導入数国内No.1※の実績が支える、圧倒的なデータカバレッジによる高い検知精度。

好循環サイクル STEP 1

大量のデータを蓄積・検証

02

独自モデルの構築

データサイエンスとセキュリティの技術・ノウハウを融合。
日本特有の商習慣や不正手口に対応した独自の検知モデルを構築。

好循環サイクル STEP 2

独自検知モデルによる検知精度向上

03

充実のサポート体制

国内自社製品ならではのスピード感＆柔軟性でサポート。
導入後も専任チームがルールチューニングや運用を柔軟にサポート。

好循環サイクル STEP 3

柔軟なモニタリング＆CS体制

導入が加速し、さらなるデータ蓄積へ

※ 株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」2026年3月末日時点

© Cacco Inc.

ECにおける代金未払い等の不正注文を独自の審査モデルでリアルタイムに検知

REAL-TIME SCREENING FLOW

ECサイト注文
購入者が注文を確定

↓

不正検知サービス
O-PLUX
Payment Protection
API連携：0.3秒（中央値）

↓

✓ OK
即時出荷

⊘ NG
注文キャンセル

主な審査機能（AIを活用した多角的な判定ロジック）

メール判定
- メール送信可否判定
- エイリアスメール判定
- 使い捨て/不審ドメイン判定

名寄せ処理
- 異なる表記の同一住所や姓名を正規化処理して活用
- 氏名とフリガナの不一致判定

デバイス情報
- IP/Cookieによる同一視判定
- 海外からのアクセス判定
- 言語/タイムゾーンによる外国人のなりすまし判定

外部DB連携
- 住所確認（デタラメな住所）
- 空室判定/ホテル/海外転送
- 電話番号疎通の判定

行動分析
- 短期間の大量購入検知
- なりすまし特有の挙動分析
- 不審な行動パターンの抽出

共有ネガティブ
- 導入累計12万サイト以上の共有ネガティブDB照合
- 初回限定品の買い回り検知
- 業界横断での不正対策

© Cacco Inc.

不正検知サービス「O-PLUX Account Protection」の概要

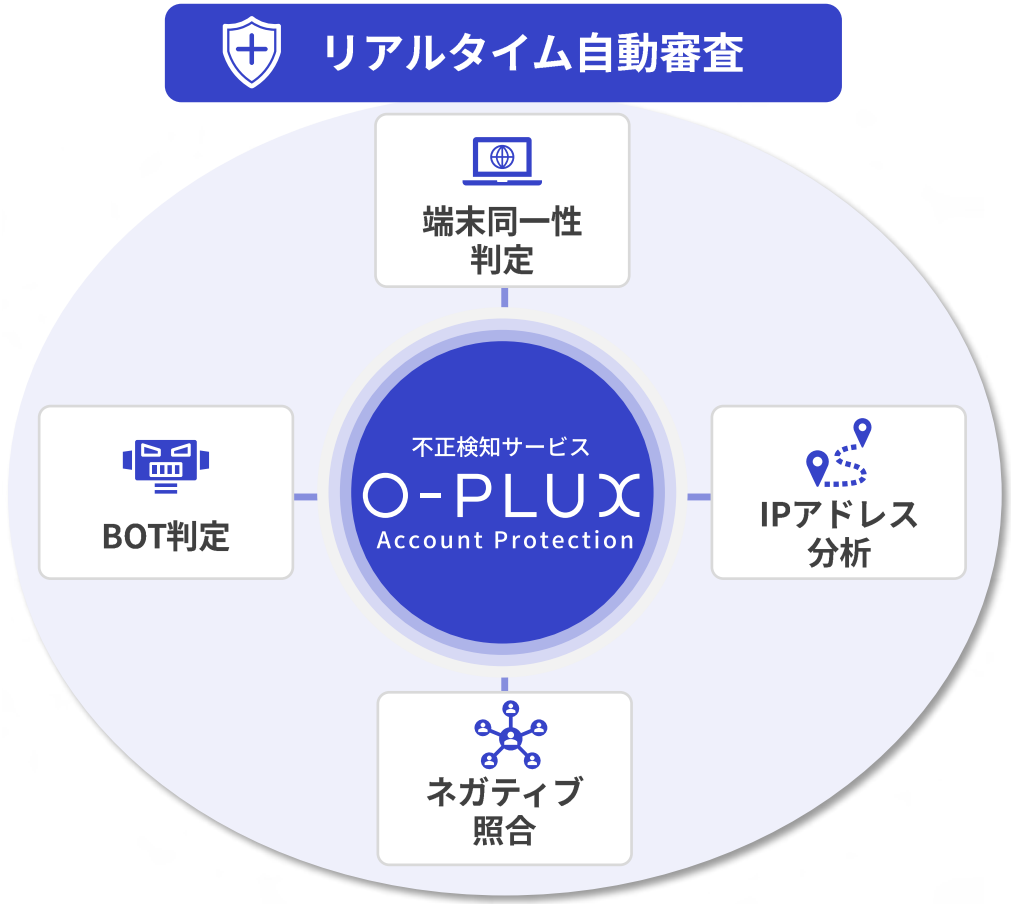
WEBサイトにアクセスしたユーザーの操作情報、デバイス情報等をリアルタイムに分析。
他人のなりすましを識別し、不正アクセスから生じる不正行為(個人情報漏洩・不正購入etc.)を防止。

不正ログイン
フィッシング/リスト型攻撃

不正登録・申込
不正口座開設/虚偽登録

BOTアタック
自動化プログラムによる攻撃





© Cacco Inc.

O-PLUX 顧客企業一部

コスメ・ヘアケア

ホビー

PC・タブレット

チケット

食品・健康食品

住まい・インテリア

ペット用品

カメラ・音響機器

アパレル・スポーツ・アイウェア・貴金属

ネットスーパー・テレビショッピング・ふるさと納税・MVNO・ホスティング他

※掲載許諾を得た一部の企業のみ掲載（50音順）　2026年10月末日時点

© Cacco Inc.

パートナー・アライアンス提携企業

ECカートシステム 他

cs cart
EC CUBE
ecbeing
EBISUMART
BOTCHAN
Welcart
売れるD2C つくーる
EC-ORANGE
eltex DC Direct Commerce EC / 通販統合パッケージ
GMO クラウドEC パッケージEC
makeshop by GMO
shopify
ecforce
Salesforce Commerce Cloud
W2Commerce
サブスクストア
たまごリピート
通販マーケッター Eight!
スマレジEC リピート
BBF
qualva
メルカート

カード会社・決済代行会社

SP.LINKS
QCS QUICK COLLECTION SERVICE
SBI GROUP ZEUS Payment Service
SB Payment Service
DGFT DG Financial Technology
DSK 株式会社 電算システム
PAYGENT
MUFG
三菱UFJニコス
UC CARD
UPC
remise

※サブスクストアとたまごリピートはTAG連携にて標準実装をしています。
※2026年10月末日時点。
※各カートシステムとの標準実装をご利用いただく際、別途開発費が発生する場合がありますので、各システム会社にご確認をお願い致します。

© Cacco Inc.

不正検知サービス「O-PLUX Account Protection」導入企業

ECサイト

ORBIS

通信販売

QVC

チケットサイト

e+ イープラス

チケットぴあ

会員サイト

共立製薬
動物と人の進む道を創る

ECカート/パッケージ

futureshop

消費者金融

ベルーナノーティス

不動産クラウドファンディング

creal
クリアル株式会社

その他社名非公開導入企業

- 銀行
- 証券会社
- 金融グループの信販会社・貸金業者 等

※ 掲載許諾を得た一部の企業のみ掲載　2026年10月末日時点

© Cacco Inc.

アドフラウド対策サービス「X-log」の概要

連携完了後は、検知から対策まで全自動。広告運用者の工数を増やさず広告効果を改善。

検知対象（広告主の脅威）

不正なIP
Bot・代行業者の発信元アドレス

効果の無い配信先
CVに繋がらない広告掲載枠

不正な端末
流動IPのスマホ・Bot端末

X-log解析エンジン

X-log（エックスログ）

50項目以上を採点

IP / 配信先 / 端末

不正レベルを10段階で評価

自動対策アクション

広告除外IP登録
媒体APIで自動除外

プレースメント除外
効果の無い配信先を除外

オーディエンス除外
端末単位で除外

付加機能

企業分析機能　固定IPから流入企業を特定 → 競合除外 / 営業リスト化

媒体への返金請求支援　解析データを抽出 → 媒体サポートへ調査依頼 → 返金

導入は3ステップで完了

STEP 01 解析タグ挿入 → STEP 02 API連携 → STEP 03 X-log設定

© Cacco Inc.

決済コンサルティングサービス

BNPLの構築・立上げについて、サービス構築、決済システム開発、運用サポートまでワンストップで支援。
審査エンジンは不正検知サービス「O-PLUX」を提供。

ONE-STOP-SUPPORT

- BNPL事業検討・構築
- 決済システム開発
- 運用サポート
- 審査エンジン提供「O-PLUX」

3つの強み

01 POINT

複数のBNPL事業の立ち上げ・開発実績

- 月間取引数百万件規模の決済システム構築実績
- 事業計画、各種要件定義などの立ち上げサポート
- 事業開始後の運用構築（与信など）までカバー

02 POINT

BNPL運用経験者による専門コンサルティング

BNPLの運用経験豊富なコンサルタントが、お客様の視点に立って最適な提案を実施。システムだけでなくビジネス面も強力にバックアップ。

03 POINT

国内導入数No.1の「O-PLUX」による不正検知

当社は、シビアな精度が求められる金融・決済分野で不正検知の実績をあげてきました。不正検知サービス「O-PLUX」は国内導入数No.1※を獲得しています。

※ 株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」2026年3月末日時点

© Cacco Inc.

データサイエンスサービス

AI・統計学・数理最適化の技術をもとに、予測のモデル化や機械学習を適用した自動化など、経営に資する数値を最適化するアルゴリズムを開発・提供。

Our Approach

KPI算出

データの集計・可視化から、要因分析、KPI算出、提案までを実施。

データサイエンス分室

自社の一部門の様に、データ分析サービスを月額契約で活用可能。多様な分析ニーズに対応可能。

アルゴリズム開発

経験値に頼らない最適化、自動処理による生産性向上。需要/リスク予測など、利益拡大を追求する専用アルゴリズムを開発。

Case Studies

年商1,190億円の壁材メーカー

最適化

1700製品・12生産レーンにおける複雑な生産計画を自動作成。
生産量の最大化とロス最小化を両立。

1.3億円 年間コスト削減（最大）

年商55億円の文具メーカー

統計・AI

カレンダー・手帳等の需要予測と生産指示アルゴリズムを開発。
欠品による機会損失を最小化。

70% 販売機会損失削減

コールセンター

最適化

翌月の日・時間帯単位での需要を予測し、経営指標、従業員の勤務希望、労働条件といった複数の制約を満たす人員配置計画を自動生成。

0.6億円 年間コスト削減

© Cacco Inc.

AIセキュリティ診断サービス（株式会社Anycloud）

NEW｜2026年10月 提供開始

AIエージェントが攻撃者の視点で脆弱性を継続的に検証し、エンジニアが修正の完了まで伴走するセキュリティ診断サービス。
2026年10月に提供を開始。「O-PLUX」と合わせ、「攻撃」と「不正」の両面からオンライン事業を守る。

Why now

600件
公表された不正アクセス等の被害※1
2026年1〜9月で前年の年間件数（593件）超

10件
100万件以上の個人情報漏えい※2
上場企業等。2025年通年（6件）を超過

24時間未満
脆弱性の発見から悪用まで※3
中央値。AIによる攻撃の自動化で高速化

Our Approach

Anycloud

01 **横断的な診断** コードからクラウド設定まで6領域を一気通貫で診断
02 **継続的な診断** 定期的に繰り返し、修正済み箇所の再発も確認
03 **修正完了までの伴走支援** 修正方針の策定から本番反映まで支援



※画面はイメージです。数字は架空のものです。

※1 トレンドマイクロ株式会社による企業・自治体の公表情報の集計（共同通信2026年10月6日報道）
※2 株式会社東京商工リサーチ（2026年10月7日公表、10月5日時点）　※3 Microsoft「Digital Defense Report 2026」（2026年10月）

© Cacco Inc.

Anycloud オウンドSFA（株式会社Anycloud）

NEW｜2026年11月 提供開始

業務に合わせて作り込めて、保守まで任せられる、AIとつながる営業基盤（SFA：営業支援システム）。
2026年11月に提供を開始。既製品でも、ゼロからの開発でもない「第三の選択肢」として、今お使いのSFAより費用を抑える前提で提案。

Why now

課題01　業務がSFAに載りきらない

既製のSFAは製品の仕様に業務を合わせる必要があり、独自の承認フローや商流はExcel・手作業での二重管理が残りやすい。

課題02　使う人が増えるほど費用が増える

ユーザー単位の課金では、営業以外の部署へ広げるたびに費用の検討が必要。カスタマイズが積み重なるほど移行も難しくなる。

課題03　顧客データが集まり、攻撃の標的に

SFAには顧客・商談の情報が集まる。連携する外部アプリを経由した不正アクセスも相次ぎ、データの置き場所と権限の統制が重要に。※1

Our Approach

Anycloud

01 **業務に合わせて作り込める**　項目・画面・自動化を設定で変更

02 **自社の資産として持てる**　今お使いのSFAより費用を抑える前提で提案

03 **保守まで任せられる**　構築したチームが保守まで担い窓口を一本化



※1 Google Threat Intelligence Group 発表（2025年8月27日）ほか。SFAと連携する外部アプリの認可情報が盗まれ、正規の権限で顧客データが持ち出される事案が相次いだ。

※ 画面はイメージです。表示内容は架空のものです。

© Cacco Inc.

免責事項及び将来見通しに関する注意事項

本資料の作成について、発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれている場合がありますが、これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社として、その達成を約束するものではありません。

当該予想と実際の業績の間には、経済状況の変化や顧客のニーズの変化、他社との競合、法規制の変更等、今後のさまざまな要因によって、大きく差異が発生する可能性があります。

CONTACT INFORMATION

ir@cacco.co.jp

https://cacco.co.jp/ir/

お問合せ・個別取材のお申込みは、上記よりIR担当までご連絡ください。

© Cacco Inc.



未来のゲームチェンジャーの
「まずやってみよう」をカタチに